

平成27年度

事業報告書

(自) 平成27年 4月 1日

(至) 平成28年 3月31日

社会福祉法人 北海道リハビリ-

目 次

1	事業実施概要	1
2	事業実施状況（拠点別）	3
	2-1 法人本部	
	2-2 リハビリー・クリーナーズ	
	2-3 リハビリー・おおぞら	
	2-4 リハビリー・エイト	
	2-5 札幌ワークセンター	
	2-6 セルプさっぽろ	
	2-7 エルフィンホーム	
	2-8 陽だまり	
	2-9 ポプルス	
	経営健全化推進中期計画実績報告	18
3	理事会・評議員会審議内容等	32
4	職員研修等実施状況	36
5	行事・事業等実施状況	46
6	主な来所者（施設見学）の内訳	51
7	職場実習（受入れ）状況	55
8	施設設備整備実施報告	58
	8-1 実施状況総括表	
	8-2 事業所拠点別実施状況	
9	組織図	62
10	利用者等状況報告	63
	1 利用者・従業員数	

1. 事業概要

<概況>

昨今の福祉の動向は、各種福祉サービスを提供する現場で、低賃金などを理由に人材不足が顕在化してきており、人的サービスの質の確保が福祉事業全般の大きな課題となっている。

平成27年度のリハビリでは、各所で欠員の補充がままならず、当年度において人事考課の結果がより強く昇給に反映する給与制度への移行と、併せて給料水準の引き上げを次年度当初から行う事を決定し、今後の人材確保及び育成体制を強化した。

また、改正社会福祉法が、平成28年3月31日に成立し、翌4月1日より、その一部が施行され29年4月1日から本施行の運びとなった。改正目的であるガバナンスの強化や透明性の確保、財務規律の強化、地域社会への貢献活動などが、次年度の取組課題となるが、中でもリハビリは政令で定める基準により「特定社会福祉法人」として公認会計士による会計監査の導入が予定されており、公認会計士の選定や対応部署の体制強化を行いながら、新法に準拠した適正な法人経営を実施していく。

懸案であったクリーナース施設の老朽改築事業は、補助金が平成27年度当初予算で不採択となり、再申請していたところ、補正予算により所定申請額の3分の1の減額支給が決定したことから、自己資金・借入金の積み増しによる資金計画の見直しを行ったうえで、評議員会・理事会による慎重な再協議を経て、あらためて事業の実施を決定し、28年6月着工、29年3月完成を目的に一連の建設事業に着手した。なお同時に補助申請をしていたグループホームの新設は不採択となり次年度以降に持ち越しとした。

以上の当年度の重大取組事項や今後のビジョンに基づき、長期に安定した法人経営と発展的な事業運営をめざし、第3期中期事業計画(H28.4.1～H31.3.31)を策定するなどして、平成27年度は概ね順調に年度を終了することができた。

<経営状況>

第2期中期事業計画の最終年に当たり、計画の進捗状況を点検しながら事業の完遂に向けた取り組みを強化し、クリーニング、印刷など産業的にも厳しい就労支援事業で前年売上とほぼ同額の数字を確保することができ、加えて就労支援事業費用が、燃料の値下がりや全般的な費用の圧縮により、予算を上回る利益を確保することができた。特に印刷部門では、縮小した受注量に合わせた合理的・効率的生産体制への切り替えの効果により、3年連続の黒字決算となった。また、ホテルリネンサプライ部門は、外国人観光客の急激な増加により道内クリーニング業界の通常生産許容量を上回る活況となっており、当法人のクリーニング部門に下請け依頼が複数あり、新工場完成後の生産量を今から確保するためにも現在は入荷許容量を超える稼働を行いながら、宿泊単価が大幅に上昇していることに合わせて、既存顧客であるホテルへの洗濯単価の値上げ交渉も進めている。

福祉事業は、計画的に進めてきた建物等の環境整備とサービスの質の向上などの利用促進策により、27年度は9名の利用増に繋がり、年度末現在441名、平均利用率88.3%で障害福祉サービス等事業収益は、堅調に推移している。また、「リハビリークリーナース」のクリーニング作業棟の老朽改築事業は、補助金の支給決定を受けて28年6月工事着工に向けて、各種手続きと準備作業を進めている。

中長期にわたる課題である人材の確保と育成については、昨今の求人難により若年層の人材がいまだに充足できていない状況にあり、定年後の継続再雇用者等により人員不足には至っていないものの、将来に向けて若年労働者の確保は最重要課題と認識しており、これまで以上の幅広い求人活動と採用後の研修のあり方、給与制度の改正と同時に給与水準の底上げを行うなど、採用から育成と定着に向けた処遇全般の見直しに取り組んでいくこととしている。

< 決算状況 >

1. 資金収支

事業活動の収入が 3,130,500 千円予算比 99.7%、支出が 2,775,199 千円 予算比 96.7%、収支差額が 355,301 千円 予算比 131.0%となり事業活動収支は概ね予算どおり執行することができた。また、施設設備等による支出も、計画及び予算の適正な執行に努めた結果、3月末の支払資金残高は、615,735 千円となり、予算比 131,714 千円の増額となった。

2. 事業活動収支

就労支援事業は、収入が 2,252,918 千円 予算比 98.9%、前年比 99.8%、支出が 2,176,420 千円 予算比 96.4%、前年比 96.0%、収支差額が 76,498 千円 予算比 379.5%、前年比 858.7%となり、予算を大きく上回る好成績で終えることとなった。

福祉事業は、収入が 865,557 千円、予算比 101.5%、前年比 107.0%、支出が 764,293 千円 予算比 96.7%、前年比 107.0%、収支差額が 101,263 千円 予算比 162.8%、前年比 107.2%となり、主要 2 事業での収益力が高まった。また、これに公益事業、収益事業、その他の収益を合算した法人全体のサービス活動収益計については、収入が 3,126,175 千円 予算比 99.7%、前年比 101.8%、サービス活動費用計が 2,947,954 千円 予算比 96.5%、前年比 98.6%、サービス活動増減差額が 178,221 千円 予算比 216.4%、前年比 215.4%となり、27年度の事業活動は、予算を大きく上回ることができた。

平成 27 年度における主な事業実施状況については、次のとおりである。

第 2 期経営健全化推進中期計画の最終年における達成状況の点検と総括	3 頁 1.、19 頁
各種関係法令の改正等に伴う関係規程等の整備と周知	3 頁 1.
(パートタイム労働法、次世代育成支援対策推進法、マイナンバー社会保障・税番号制度、女性活躍推進法)	
従業員の処遇改善に向けた取組	3 頁 1.
(人事考課制度に基づく新給与制度の構築、定年時期延長の検討・協議)	
リハビリ・クリーナーズ老朽改築に伴う補助金支給決定と実施	3 頁 1.、7 頁 1.
グループホーム増設計画の補助金不採択に伴う次年度以降への計画変更	3 頁 1.、16 頁 1.
社会福祉法等の一部改正に伴う新制度への対応と準備	4 頁 1.
平成 28 年 4 月の障害者差別解消法施行に向けた準備	4 頁 2.、9 頁 1.、14 頁 1.、16 頁 1.
「ふるさとキャリア教育推進事業」への参画	6 頁 2.
災害時における福祉避難所の設置及び協定の締結	6 頁 2.
地域の社会的援護を必要とする方々への支援	6 頁 2.
地域住民との交流の場として「カフェ」の開設	13 頁 1.

2. 事業実施状況（拠点別）

2-1 法人本部

1. 法人運営

経営健全化推進中期計画の最終年にあたることから、計画の達成状況の点検と総括を行った。

障害者権利条約の批准に伴い、障がい者の権利擁護や虐待防止等に関する職員意識の一層の向上と適切な福祉サービスの提供に努めた。

各種関係法令の改正や体制変更等に伴い、規程等の改正や関係書類の整備を適時行い、従業員等への周知徹底に努めた。

- (7) 平成27年度人事体制の変更に伴い、各就業規則及び給与規程の一部改正を行った。
- (イ) パートタイム労働法の改正に伴い、施設長等連絡会議等を通して全有期契約労働者の雇入れ時、または、契約更新時に労働条件や相談窓口の設置等について理解できるよう説明を行った。
- (ウ) 次世代育成支援対策推進法の10年間延長に伴い、労働者の仕事と子育て両立のための行動計画を策定し、北海道労働局に届出を行うとともに対象従業員へ周知を図った。
- (ロ) 所内預金管理規程を現状の運用に照らし合わせ見直しを行った。
- (ハ) 社会福祉法人の経営情報公開の義務化に伴い、現況報告書ならびに貸借対照表、収支計算書等を当法人のホームページにて情報公開した。
- (カ) 平成28年1月からの「マイナンバー社会保障・税番号制度」開始に伴い、ガイドラインに基づき取扱要綱ならびに適正な取扱いに関する基本方針を定め従業員等に周知を行い、特定個人情報の収集・保管体制等を整備し、安全管理措置の構築を図った。
- (キ) 平成28年4月施行の「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律」(女性活躍推進法)に伴い、女性従業員の雇用現況調査と課題分析を行うとともに、女性の活躍推進に向けた行動計画を策定した。

人事考課制度に基づく新たな給与制度の構築を進め、給与規程の職員本給ならびに職務手当の一部改定を行い、平成28年度より導入する事とした。

リハビリー・クリーナース新作業棟の老朽改築に向け、公的資金の活用と健全な資金計画の策定をするため、社会福祉施設整備費補助申請書を提出し、交付決定されるとともに、福祉医療機構の借りに係る相談・協議・申込準備を進めた。また、グループホーム増設に係る社会福祉施設整備費補助金は不採択となった。

利用者と地域住民とのふれあいの場とした第42回ボランティア・カーニバルを開催した。
<開催日：平成27年8月30日(日)、来場者他：約1200人>

デマンドシステム運用によるピークデマンドの制御やリハビリー・エイトボイラーのタイマー制御等を実施し、電気ならびに燃料等のコスト削減に努めた。

リハビリー・おおぞらのパート労働者より雇用継続について、北海道労働委員会に調停が持ち込まれ、和解による解決となり終結した。

正職員の定年時期の延長について検討・協議を進め、定年を誕生月から年度末まで延長することとし、平成28年度より導入する事とした。

平成28年3月成立となった社会福祉法等の一部改正法案(平成29年4月本施行)の平成28年4月一部施行に伴い、関係機関や説明会等において情報収集を行い、事業運営の透明性の向上、地域における公益的な取組等の協議・検討を行い新体制移行に向けた準備を進めた。

2. 施設運営・福祉事業(共通)

平成28年4月1日から障害者差別解消法が施行されるにあたり、法の施行と同時に、障がい理由とする差別の解消に関する相談窓口を設置し、利用者が福祉サービスを適切に利用できるよう支援するための準備を行った。

障害者総合支援法施行後3年を見直しされる就労支援や支給決定のあり方等について、社会就労センター協議会(セルフ協)等を通じ情報収集等に努め、適正な施設運営と福祉サービスの提供に努めた。

他県の障がい福祉サービス事業所において、職員が利用者に対し虐待を繰り返していた事件を踏まえ、利用者の人権擁護や虐待防止に関する取り組みの強化について全従業員に周知徹底を図るとともに、法人内外の研修等に積極的に参加するなど、福祉事業職員としての資質向上に努めた。

事業運営における問題点の把握と良質かつ適切な福祉サービスの提供を図るため、福祉サービス第三者評価の計画的な受審に取り組んでおり、今年度は札幌ワークセンター及びセルフさっぽろの2施設で受審した。

サービス管理責任者連絡会議を毎月1回開催し、個別支援計画の策定や援助技術等の向上を図るとともに、障害者総合支援法や福祉制度に係る情報の共有、各施設間の連携及び協力により、適正な福祉サービスの提供、利用者支援の充実と質の向上に努めた。

個別支援会議を毎月1回開催し、各施設における利用者の自立に向けた支援の具体的な成功事例や困難事例等の報告検討や協議を実施し、職員の資質向上及び人材育成を図るとともに、専門性を活かした質の高い福祉サービスの提供に努めた。

苦情相談委員会を隔月1回開催し、利用者及び家族等からの苦情や要望の申し出に対し、利用者の意向や立場、障がい特性等に配慮した迅速・適切な対応に努め、苦情相談委員からの意見・助言等を踏まえて支援の改善や向上を図った。

受理件数 2件

処理状況 リハビリ・エイト利用者A氏から、『新任職員が各テーブルを挨拶しに回っていた時に、利用者B氏が新任職員に対し、「わかったから(私のところへは)来ないで」という失礼な言葉を言っていた。周りの利用者も不愉快になりました。このままだと新しく来た職員は、半年後には退職してしまうのではないのでしょうか。そんなに嫌ならリハビリから出て、別な施設に移ってもらいたい。多数の利用者もそう願っていることを知ってほしい。また、夜の訓練の時に、夜間支援員に対し、「痛い」とか「もう少し押して」などと、(乱暴な言葉づかいで)言っている。文句を言わないでほしい。夜間支援員が可哀そう。(B氏には)まだまだ苦情はあるが、もう少し利用者みんなが苦痛にならないよう、施設側として(B氏の指導を)できないのでしょうか。私は毎日が苦痛です。』との苦情の申し出があった。苦情申出者A氏及び当該利用者B氏とそれぞれ面談を実施し事実確認の結果、B氏から「自分が悪かった。申し訳ない。今後は、気をつけたい。」との反省の弁があったことから、A氏に対しB氏の反省の弁を伝え、苦情相談委員会に報告する旨を説明し、A氏の下承を得て解決した。また、7月21日の苦情相談委員会に経過報告を行い、今後ともB氏の言動等を注視しながら、適切な支援に努めていくこととした。

処理状況 札幌ワークセンター利用者A氏から「入浴時に浴室を移動する際にふらつくので、支援員B氏に身体を支えてほしいとお願いしても支えてくれない。また、手が痛いので背中を洗ってほしいとお願いしても、手や肩の運動になるから自分でするようにと言われることにストレスを感じる。いろいろ言われることがつらいのでB氏が入浴担当日にはお風呂に入りたくない。」との苦情申し出があった。

支援員B氏と面談し事実確認の結果、「A氏が、自分自身で背中を洗ったり、歩行することができるので支援する必要はないと考えた。またA氏のADL低下防止のため、良いと考えた。」とのこと。しかし、A氏から申し出のあった入浴時の支援については、個別支援計画の中で盛り込まれている事項であり、実施しなければならないものである。B氏に対し個別支援計画の意味と寄り添う支援とは何かをしっかりと考えて支援を行うよう注意した。B氏から「わかりました。行います。」との返答があったので、利用者支援には十分に心を配るよう指導した。その後、A氏に対する入浴支援はきちんと行われているが、A氏とB氏との関係には、わだかまりが残っているように見受けられることから、B氏の言動等を注視している。

地域福祉関係機関及び地域との情報交換やネットワークづくりを図るため、障がい者自立支援協議会や西の里地域たすけあい会議、北広島市就労情報交換会等に参画した。

JR新札幌駅への定時送迎の利用者増に伴い、4月から送迎車両を2台体制に拡大するとともに、各施設において利用者ニーズに対応したドアtoドア送迎サービスの充実に努めた。

広報誌「Welfare」を5月・7月・10月・1月に発行し、関係施設や実施機関等に対し、各施設の運営方針や実施事業等の広報・PRに努めた。また、監事のアドバイスを受け、身近な話題や出来事を利用者や利用者家族に情報提供するため、「施設だより」を5施設が発行し、他2施設は発行準備を進めている。

総合防災対策委員会において、各施設での防災対策の取組み状況の報告を行うとともに、火災発生及び大規模地震を想定した消火・避難訓練を実施し、防災意識の高揚、非常時の連携協力体制の強化に努めた。

< 防災訓練実施状況 >

6月26日	エイト	7月10日	エルフィン	8月25日	エイト
9月4日	セルフ	9月16日	やまはな	10月8日	陽だまり
10月14日	クリーナース、おおぞら、エルフィン、エイト(法人本部)				
11月4日	陽だまり	3月4日	セルフ	3月7日	やまはな
3月24日	クリーナース、おおぞら、地域福祉推進室			3月25日	ワーク

入所施設利用者預り金の管理状況を各施設から法人本部に毎月報告を徴し、内部統制など法人全体で管理体制の強化を図った。

北海道教育委員会が進めている「ふるさとキャリア教育推進事業(地元高等学校が研究指定校)」に参画し、当該高等学校生徒を招いた障がい者福祉の体験学習を実施したほか、ノーマライゼーション等に関する意見交流会・学習会やインターンシップ成果発表会等に参加し、地域の産学官民連携による未来を担う人材のキャリア教育活動に取り組んだ。また、本事業を推進するために設置された「石狩管内地域未来づくり会議(北海道教育庁石狩教育局主管)」に委員として参加し、研究指定校の取組み等に対して専門的見地から助言・指導等を行っている。

災害時に一般の避難所で生活する事が困難な被災者(高齢者、障がい者等)の福祉避難所として、北広島市の要請を受け「災害時における福祉避難所の設置及び運営に関する協定」を締結した。(指定施設は障害者支援施設リハビリー・エイト)

地域の社会的援護を必要とする方々への支援。

- (7) 北広島市より季節労働者の求職活動の一環として、他業種で働く不安の解消、仕事の適性判断等を行うための協力依頼があり、北広島施設で2名の就労体験実習を受け入れた。
- (4) 札幌市の生活困窮者就労支援センターより依頼があり、引きこもりや心身に課題がある等で一般就労が難しい生活困窮者に対して、就労機会を提供し支援を行うため、セルフさっぽろで1名の職場体験実習を実施し、就労移行支援事業の利用者として受け入れた。

2-2 リハビリ・クリーナース

1. 施設運営・福祉事業

利用者家族と連携を図り、作業状況や健康状態把握に努め、適切な支援目標の設定と利用率の維持向上に努めた。また、高齢で介護サービスを併用している利用者には、地域包括支援センターとも連携を図り、通院・服薬状況の把握と本人への助言を行い、安定した通所の促進に努めた。

利用者が適切な行政サービスの提供を受けられるよう、各市町村、相談支援事業所やハローワークと連携を図り、情報の収集と提供に努めた。

西の里地域たすけあい会議に積極的に参加するとともに、地区夏まつりのテント設営等の共同参加や地域の福祉事業所の行事への相互訪問等を行い、施設間の連携と職員間の親睦を深めた。また、共同行事として、西の里小学校での車椅子体験学習や除雪交流会へ参加し、小学生に西の里地区の福祉施設の紹介と地域住民同士の共助の大切さを認識する活動に継続的に参加した。

利用者の障がい特性が多様化し、高次脳機能障害、統合失調症、強度行動障害等の利用者に対応するため、職員の知識向上と適切な作業形態の構築や、訓練場所の変更を行った。また、福祉関連の外部研修会への積極的な参加促進に努めた。

利用者の快適な施設利用の推進を図るため、健康診断結果、通院、服薬状況を把握し、適宜健康改善指導と食事、運動及び生活習慣に対する助言を行った。

障がい者生活支援センターから紹介を受けた地域の在宅障がい者1名が軽作業を行い、作業内容とニーズがマッチしたことから施設利用に繋がった。

近隣の在宅障がい者へ軽作業事業のPRを図るため、西の里及び虹ヶ丘地区での地域行事において利用案内活動を行った。

作業棟老朽改築に伴い申請していた、社会福祉施設等施設整備費が採択されたことから、国庫補助事業等のスケジュールに基づいた実施設計を進めるとともに、利用者の作業環境、省エネ、生産効率、資金計画、事業収支や将来的構想等の検討を進めた。

2. 就労支援事業

若手職員の専門的技術や技能向上による、同業他社との差別化(高品質化)を図るため、機材関連業者と連携した内部研修会を定期的実施した。

クリーナース老朽改築に伴い、物量や生産体制の変動等に対応できる高生産体制構築のため、世代交代を考慮した若手職員の部門間異動を実施するとともに、個別の適正と部門別生産実績に配慮した人員配置計画を進めた。

実績及び状況報告(クリーニング事業部)

(7) ホームクリーニング

ホームクリーニングは、前年対比8,213千円の減、前年比91.4%と低迷が続いた。要因は、取次店自体の集客力の低下に加え、家庭での洗濯が可能な衣料や低価格衣料の増加が大きな要因であることから、半額セールや布団丸洗いセールなど外注先等の協力を得ながら営業活動を実施した。また、地方取次店舗の廃業など、札幌圏外は引き続き厳しい状況にあり、予算達成が出来なかった。

(4) 産業クリーニング

産業クリーニングは、前年対比 41,574 千円の増、前年比 125.0%となっており、新規受託件数 9 件の下洗いを受託できたことに加え、ホテル稼働率上昇に伴ない、少額な産業クリーニング取引も 31 件受託したことから、大幅な増収となった。

(5) ホテルリネン

ホテルリネンは、前年対比 938 千円の増、前年比 100.5%に終わった。ホテルの繁忙期には、補助ベッド増の使用などにより宿泊数が落ちない状況であり、集客率は前年度より増加傾向であったが、地方のホテル・旅館・施設等は微減している。また、主要ホテルの宴会部門やその施設の結婚式場は不調であり、ホテル客室は外国人客の需要に伴い増加したが、宴会場を使用する集宴会は不調であり道内景気の不透明さが要因と思われ、ホテルリネン全体では微増に終わった。

但し、リネン資材の値上がりもあることから、全体的なホテルリネン単価の見直しの検討を進めた。

(6) 商品販売

商品販売については、北広島市入札を落札するなど、前年度と同等で終わることができた。また、クリーニングの受注につながる可能性があるため、学校関係へのカーテン販売に注力してきたが、現行の取引業者には敵わず、新規取引には至らなかったことから、競合相手が少ない地方への進出について検討を進めた。

リネン品の管理徹底を図るため、在庫管理や毎月の棚卸しを実施し、適正在庫の調整等や余剰在庫の減少を図った。また、タオル等の一部商品の統一化を図り、仕入費用の抑制に努めた。新製品の導入については、品質、価格、テスト洗い等を含めて、引き続き検討する。(クリーニング事業部)

集配ルートの編成は、ホテルクリーニングの新規取引が増えたことから、既存ルートと混合運行を図り、最少のルート編成を組むことが出来た。また、編成前のルートでは吸収できなかった顧客先等も新規顧客と併せた効率のよい新規ルート編成を組んだ。(クリーニング事業部)

リネン管理の担当職員 1 名を採用し、必要な営業管理やリネン管理の意識徹底を図った。また、法人内における多種多様な業務に精通できる人材育成に努めた。(クリーニング事業部)

2-3 リハビリ・おおぞら

1. 施設運営・福祉事業

人材育成を図るため、専門的技術資格取得のための受験準備を行った。また、次世代を担う若手職員の計画的採用を図ったが採用には至らなかった。

ハローワークや各相談事業所等と連携を図り、就労継続支援 A 型利用者を含み前年度末対比 9 名増となり、目標としていた定員を上回る 107 名の利用者数となった。またさらに、4 月に受け入れ予定の 8 名について、関係機関と連携を図り、受け入れの準備を進めた。

毎朝実施する、職制や支援員等によるミーティングを通じて、施設内各職場間の利用者状況および作業進捗状況等の情報交換を行い、質の高い福祉サービスの提供に努めた。

障害者差別解消法等の外部研修の内容について、福祉事業職員による内部研修会で報告し、知識の習得と共有に努めるとともに、サービス管理責任者・職業指導員・生活支援員による個別支援会議を毎週実施し、利用者個々のケースに応じた個別支援計画の策定に努めた。

一般就労支援への積極的な取り組みにより、就労移行利用者1名が8月に一般企業(物流業)に就職するとともに、定着支援に努め、28年度の継続雇用が決定した。また、利用者1名が、一般企業において1週間の体験実習を行った。

2. 就労支援事業

資材等の価格変動状況についての情報収集をするとともに、クリーニング事業部と連携し、得意先在庫の確認を行い、適正在庫管理の徹底に努めた。

機械設備については、年間メンテナンス計画を作成し、施設整備課及びメーカーと連携して確認、整備を実施した。

病院寝具・ダイアパー部門の作業の効率化を図り、一斉指定休日の日数を増やすとともに、デマンドの目標数値を低めに設定し、人件費、電力費や燃料費の削減に努めた。

有給休暇の取得促進に向けた生産体制の構築を図ったが、想定外の退職者増があり、当初の予定通りの取得促進には至らなかった。

有期労働契約を締結していたパート職員に前年度末で雇止を行ったことに対する、パート職員から北海道労働委員会への救済申立に伴い、北海道労働委員会の「あっせん」により協議し、和解に至った。

実績及び状況報告(クリーニング事業部)

(7) 病院寝具

病院寝具は、寝具・病衣・ダイアパー等の取引がある病院や施設との契約が解除となり、約2400万円の売上減となった。さらに、地方の病床減や地方病院の閉院により契約解除及び売上の減が響き、年額約170万円の値下げを余儀なくされた。

但し、施設等の新規獲得及び価格の改訂を行った結果、前年度を上回る状況にはならなかったが、今期減額金額の7割近くを補う事が出来た。

(4) 白衣リース

白衣リースは、計画通りに入れ替えが実施され、前年対比6,221,000円の増、前年比103.6%となり、更新時の料金改定を含めた交渉が出来た。

また、白衣リネン投入に伴う製品の一部再利用も拡充し、プール予算に匹敵する在庫の利用を行った。

病衣は、施設によっては単価増もあったが、それ以上に病院側による患者の入院日数減の改革が影響し、病衣の使用数が減った。

(9) ダイアパー・セットリネン

ダイアパーは、契約解除分を差し引くと、前年度とほぼ同程度の売上げであった。日常使用品(セットリネン)のリース会社2社と協調し、タオル等のセット販売による単価アップを図るため検討を行った。また、病院施設においても単価の引き上げに努めた。

(I) 商品販売

商品販売は、前年比 100%以上となっており、紙オムツ販売については、11月に大型契約を獲得し、病院への継続的な提案により、更に月額50万円の契約を獲得した。また、社会福祉施設において、月額3万円の契約を獲得したが、一部のセクションのみであったことから、今後全施設の獲得に努めたい。

リネン品の管理徹底を図るため、在庫管理や毎月の棚卸しを実施し、適正在庫の調整等や余剰在庫の減少を図った。また、タオル等の一部商品の統一化を図り、仕入費用の抑制に努めた。新製品の導入については、品質、価格、テスト洗い等を含めて、引き続き検討する。(クリーニング事業部)

集配ルートの編成は、ホテルクリーニングの新規取引が増えたことから、既存ルートと混合運行を図り、最少のルート編成を組むことが出来た。また、編成前のルートでは吸収できなかった顧客先等も新規顧客と併せた効率のよい新規ルート編成を組んだ。(クリーニング事業部)

リネン管理の担当職員1名を採用し、必要な営業管理やリネン管理の意識徹底を図った。また、法人内における多種多様な業務に精通できる人材育成に努めた。(クリーニング事業部)

2-4 リハビリ・エイト

1. 施設運営・福祉事業

特別支援学校や福祉関係機関等への利用促進活動を継続するとともに、施設見学・体験利用等を積極的に実施し、定員充足と利用率の向上に努めた。(新規利用者4名・実習10件(24名)・施設見学20件(295名))

年間研修計画に基づき、階層別・職種別及び個々のキャリア・スキル等に応じた外部職員研修へ積極的に参加するとともに、グループワークや課題別勉強会等の内部研修を適時実施し、利用者支援に対する共通認識の確保と専門性、援助技術等の向上に努めた。

施設入所支援事業・生活介護事業

- (7) 障がいの重度化や高齢化、個々の心身状況等に応じた日常生活支援を提供し、残存能力の維持向上及び情緒の安定を図るとともにQOLの向上に努めた。平均障害支援区分は前年度の3.7から3.8へと上昇した。(主な日常生活支援：声掛け、見守り、入浴支援、洗髪支援、排せつ支援、食事介助、栄養マネジメント、療養食提供、移乗・移動支援、洗濯支援、居室清掃支援、就床起床支援、寝具交換、衣服着脱支援、通院支援、身体機能の改善(運動・歩行訓練・機能訓練等)、バイタルチェック、日常健康管理、与薬管理、相談援助、所持品等管理、補装具等の購入申請支援、訪問理美容の提供など)
- (8) 夜間支援体制の強化を図るため、夜間支援職員の配置を2名体制にて継続するとともに、夜警職員との連携や夜間休日のオンコールに対応した緊急対応を実施した。
- (9) 日中活動のプログラムについては、習字や切り絵、手工芸、菜園作りなどの創作的活動のほか、買い物や社会見学などの外出レクリエーション、ゲーム等の余暇的活動等を実施し、個々の心身状況や利用ニーズに配慮したプログラムの提供に取り組んだ。

就労継続支援 B 型事業

- (7) 多様化する利用者ニーズや障がい特性、健康状態等を踏まえて、作業訓練内容・作業訓練時間・作業訓練環境などに配慮した就労支援を行うとともに、個別面談を適時実施し、精神的・情緒的安定を図りながら、就労に関わる基本的習慣の確立と作業意欲・作業能力の維持向上に努めた。
- (4) 障がい状況や家庭環境、地域状況等を考慮し、自力での通所が困難な方に対するドア to ドアの個別送迎を拡充するため、各課連携による送迎協力体制づくりを進めた。(個別送迎実施者：13名)

就労移行支援事業

一般就労に向けたアセスメントや面接訓練、職場実習、求職登録、SST等を実施するとともに、利用者の意向や家族との定期的な連絡及び相談を通じて、一般就労に対する理解や就労意欲の向上に努めた。また、一般就労した方への職場訪問や相談支援等の定着支援を継続した。今期は4月に1名が一般就労し、次年度の継続雇用が決定した。

2. 就労支援事業

就労支援事業の売上高は、年度当初は統一地方選挙関連の特需があったことから好調な滑り出しを見せたが、第2四半期以降は商業印刷市場の需要鈍化の影響等を受けて計画額に達しない状況が続いた。このため、補正予算において決算見込売上高を当初予算比で4.7%の下方修正を行い下期に臨んだものの市場は大きく好転せず、景況も年末に向かってやや失速したことなどから業績は低調に推移し、年度末3月期にやや上昇した分第3四半期までの減収を補う結果となった。

売上高は、予算比 7,820 千円・98.7%、前年比 33,261 千円・94.6%の減収となったが、営業損益は予算比で+13,137 千円・343.8%、前年比 5,472 千円・77.2%となり、第2期中期経営計画期間において3期連続の黒字化を達成した。

近年の事業状況、印刷市場の動向、印刷技術の進展と設備投資の課題、福祉事業を取り巻く制度や環境、利用者の障がい特性や利用ニーズの多様化等を踏まえて、障害者支援施設における今後の生産活動の持ち方・あり方について内部での議論・検討を進めた。

また、印刷事業が長年に亘って赤字収支に陥っていた状況を踏まえて、第2期経営中期計画においては、不採算生産ラインの必要な合理化・見直しを進めるとともに、近年の需要の変化等に即してオフセット印刷とデジタル印刷の生産比率の見直し・調整を図るとともに、営業活動の効率化や提案型営業を積極的に推し進めながら収益改善を図ることとした。併せて、障がい特性・利用者ニーズの多様化に応じた作業の確保と印刷事業に限定しない作業領域の拡大を併せて進めることとし、本年度は以下について重点的に取り組んだ。

営業部門における受注獲得と収益確保に向けた取り組み

- (7) 低収益物件・不採算物件の精査と見積額の引き上げを実施するとともに、受注額・収益率・潜在シェア等を基礎とした顧客の分析・ランク付けを行い、既存顧客のシェア拡大と収益が望める得意先への深耕活動を進めた。

既存取引顧客でのシェア深耕・拡大実績は、売上件数 880 件・売上額 85,205 千円で前年対比 86.0%にとどまった。また、売上総件数は 12,876 件で前年対比 91.9%、1 物件当たりの平均受注単価は 45,264 円で前年対比 +1,283 円と微増で推移した。

(4) 月次・年次単位における納期の平準化を図り、極端な生産集中による生産ラインへ過負荷と生産コスト増を抑制するために、受注アプローチにおいて可能な限り納期調整に努めた。一方で官公庁・学校等の物件は月末・年度末に受注が増加する傾向にあることから、売上・損益ともに月次変動の大幅解消には至らず継続課題となった。また、リピート物件・定期物件への早期アプローチによる再受注の確保については、顧客事情による印刷物の作成数量の減少や刊行物の廃刊などが影響して、見込物件が計画通りに獲得できず、総体的に受注高が減少した結果となった。

(5) 新規顧客開拓推進を掲げて新たな得意先の獲得に努めたが、営業員の期中退職や顧客ニーズの多様化、受注物件の多品種・小ロット化等により既存顧客対応に時間を要し、十分な営業活動が展開できなかつたことから継続課題とした。新規取引顧客数は140件、受注額は19,939千円と前年金額比117.0%の微増で推移した。

(I) 営業職員の担当エリア・担当顧客については、クライアントとの信頼関係維持と顧客満足を第一に考慮しながらも、営業活動の効率化と受注拡大を図るために必要な再編を行うとともに、営業業務との連携・バックアップにより、営業員が渉外活動に専念できる体制づくりに努めた。

新たな受注管理システムの導入に向けた検討については、見積から作業指示、日報管理、売上・納品・請求・売掛管理までの営業及び営業業務に関わる業務情報を一元管理するシステムの導入に向けた調査検討を行ったが、詳細設計、費用算定、導入スケジュール等の構築まで至らなかつたことから、第3期経営中期計画において実施することとしている。また、連動する生産部門の業務管理システムについては、既存システムの検証や新システムの要求事項分析のほか、各端末機器OS変更に対応する設計を継続的に進めることとしている。

生産部門における重点取り組み事項

(7) 生産コストの削減に向けた取り組みについては、資材調達において適時見積を徴取し、価格・品質・調達の利便性等を十分調査して購入するとともに、在庫用紙の削減のほか、損紙等の設定比率を抑え予備資材を内校や色校出力に流用するなど、総体的な材料経費の削減に努めた。

(4) 稼働率が上昇しているPOD印刷のコスト削減策として、4月からカラーオンデマンド印刷機のカウンター保守契約料金を見直し、ランニング費用の削減を図った(対前年比16.7%・760千円の費用減)。

(5) 生産管理においては、納期集中による生産ラインへ過負荷と生産コスト増を抑制するために入稿前段階から生産工程を設計し、プリプレス・ポストプレス両部門が共有して工程の把握・管理を実施し、生産能力の有効活用と生産リードタイムの短縮に努めた。また、組織的な労働時間管理を実施し、総体的な超過勤務の削減に努めた。(プリプレス部門の超過勤務は、前年比67.8%・1,358時間の減。プレス・ポストプレス部門の超過勤務は、前年比53.8%・827時間の減)

(I) 多品種・短納期・少ロット等の需要に対応するため、顧客ニーズや要求品質程度、設備稼働状況、製造コスト等を勘案してPOD印刷とオフセット印刷の生産配分の最適化を図るとともに、今後の印刷市場の動向や顧客ニーズ等を見据えて、オフセット印刷とPOD印刷双方の利点を生かした、効率的な内部生産体制と外部協力業者の有効活用を合わせた生産体制の構築に向けた検討を進めている。

利用者の障がいの重度・重複化、障がい特性や利用ニーズの多様化等を踏まえた生産活動の提供と職業指導や就労支援の充実

- (7) 障がいの重度化や加齢による作業能力の変化や知的障がい・発達障がい等の利用ニーズの増加等にもとない作業訓練・生産活動の提供方法が変化している一方で、近年の印刷事業においては、情報媒体の変化やデジタル化の波とともに、高度な技術力や専門性、高品質・短納期等を求められており、福祉的就労を含めた利用者ニーズや障がい特性等にマッチした作業が見い出せないケースもあることから、作業領域の拡充や就労支援体制のさらなる充実が求められている。このため、印刷事業に限定しない生産活動も取り入れた中で、個々の障がい特性等を勘案し、作業スケジュールの理解、作業のルーティン化、課題の個別化などを実施するとともに、感覚・知覚過敏や認知状況に配慮して少人数・個別作業の場やクールダウン環境等を提供し、作業意欲の向上や積極性・職業意識等の醸成、適性や能力の更なる引き出し、精神的安定、作業参加率の向上に繋げている。
- (1) 軽作業部門を主体とした受託軽作業については、ゼリー食品の検品・菓子箱等の組立などの通年作業を通して、生活介護事業利用者を主体とした生産活動の機会の提供と利用者の障がい特性や心身の状況、作業能力等への配慮を第一とした就労支援を継続している。

2 - 5 札幌ワークセンター

1. 施設運営・福祉事業

地域の相談事業所との協働強化に努めた結果、新規利用者6名(入所1名、生活介護3名、B型2名)を受入れた。その内生活介護1名は、触法障がい者であるが、担当相談事業所及び生活の場であるグループホームと連携を密にして、ケアマネジメントの支援に努めた。

障がいの重度化、精神疾患の重複、環境変化に心因反応を示す利用者に対しては、現況を統一的に把握及び理解することが支援上不可欠なことから、利用者個々の課題分析をするため、24時間シートを作成、記録して、状況変化等に対する個別支援の強化を図った。

高齢に起因する疾病、生活習慣病等に罹患及びその恐れのある利用者には、看護師、栄養士、支援員が一丸となって、食生活等の改善と助言を行うとともに医療機関の受診などの支援強化に努めた。

個別支援計画モニタリング時に、地域移行についてアセスメントを行っているが、移行後の不安等を訴える利用者があることから、日常的に相談を行い、その不安の軽減に努めた。

土曜・祝日の開所、屋外レクリエーションや温泉風入浴会の企画等により、利用者満足度向上に努め、生活介護の利用率が前年対比11%増の99%に上昇し、給付費収入の増加に繋がった。

札幌ワークセンター内にカフェを開設し、地域住民との交流及び地域貢献のために開放した。

2. 就労支援事業

清掃部門の支援員1名を増員し、職員4名体制を敷き、自傷行為を行う利用者に対し、寄り添う支援を行い、その行為の軽減を図るとともに改に作業指導マニュアルを作成し、作業指導の強化を図った。

一般就労を希望する利用者の意向を個別支援計画に盛り込み、SSTを実施するなどして社会性を身に付け、就労継続支援B型利用者1名を企業に就職させることができた。

パン製造部門において、一般就労を希望する重度障がい利用者に適切な個別支援に努めるため、作業工程を細分化し、各利用者が行うことが出来る作業を提供した。

洗濯業務を受託している特別養護老人ホームにおいて、11月より館内清掃業務も受託し、施設外就労場所の確保及び工賃向上に努めた。

2-6 セルプさっぽろ

1. 施設運営・福祉事業

利用者や保護者のニーズに応じて、地域の福祉事業所と連携し、移動支援、通院介助、家事援助等の在宅サービスを紹介する等、地域生活支援に努めるとともに、グループホーム等への地域移行については、将来的に希望する利用者や保護者に対して継続的な情報提供を行った。また、生活保護や日常生活用具給付(杖、車いす等福祉用具)に係る個人申請の支援に努めた。

毎月実施している個別支援計画策定会議では、ケアマネジメントの基礎を学ぶとともに、全職員が支援計画の策定に携わり理解を深めた。また、「障がい者の権利擁護」「虐待防止」「障害者差別解消法」「発達障がいの特性」等について内部研修を毎月実施し、情報を共有することで支援に関する共通認識を図った。

地域自立支援協議会のメンバーとして参画するとともに、地域フォーラムの開催準備や豊平区主催の研修会等へ参加し、地域ネットワークの拡大を図った。

ハローワークや障害者職業センター等の各関係機関と連携を図り、一般就労に向けた取り組みを積極的に行ったことで4名が就職に繋がった。また就職した利用者に対し、障害者職業センター等と連携を図り、チーム支援により継続的な定着支援に努めた。

<老人ホーム(清掃業務)1名、レストラン(食器洗浄業務)1名、調理委託業者(調理補助業務)1名、水産加工会社(製造補助員)1名>

一般就労を希望する利用者へ定期的にSSTを実施し、挨拶や報告の仕方、履歴書の書き方、パソコン等での求人検索等の就労に必要なスキルを身につける訓練をロールプレイング中心に実施するとともに、利用者個々の課題の整理に努めた。また、施設外就労では清掃業務等を通じ、より実践的な就労経験の研鑽に努めた。

利用者自治会主催行事への積極的な支援に努めた。また、土曜日開所では利用者の希望を考慮し、利用者との関係性の向上に努めた。

<自治会主催行事：焼肉会(7月)、宿泊旅行(9月)、クリスマス会(12月)>

<施設見学・屋外レク：(4月・5月・6月・8月・10月)>

<室内レク：(11月・1月・2月・3月)>

新任職員スキルアップ研修をはじめ、リーダーシップ養成研修や、社会福祉法の改正に伴う地域公益活動、障害者差別解消法、工賃向上に関連した外部研修へ積極的に参加し、福祉事業職員の専門性・援助技術・ケアマネジメントの向上を図った。

2. 就労支援事業

既存作業の継続的な受注に加え、スポットも含めた新規物件の確保により、売り上げの向上に努めた。また、資材等の値上がりにより経費が増額となる物件は、受注単価を見直し適正化を図った。

個別支援計画や利用者へのモニタリングにより、作業についてのニーズを把握し、全職員が参加する個別支援策定会議において利用者の課題、希望、目標等を周知し、計画の進捗状況を確認するとともに、ニーズに合った作業支援を図った。また、障がい特性に関する内部研修を実施し、作業支援の充実に努めた。

後継者育成を図るため、職員の多能工化を進めるとともに、業務内容や作業配置を見直し、作業の移行を効率的に進めた。

札幌ワークセンターの清掃業務と老人施設の洗濯・清掃業務を職員2名と利用者10名体制で実施しており、年間を通じて工賃アップに繋がる安定した収入を確保できたが、新規契約先の獲得及び契約作業増加には至らなかった。

ウェルプラザやまはな直営店舗では、折込チラシの内容変更、季節毎の特価商品を見直す等売上アップに努めるとともに、のぼりやポップ等の店頭販促ツールを増やす等、顧客が注目するような対策を講じ、集客・増客を図った。

クリーニング技術のレベル向上を図るため、ズボン等のプレス技術について内部勉強会を実施し、専門知識及び技術の向上に務めた。

2-7 エルフィンホーム

1. 施設運営・福祉事業

地域会議や町内会行事への積極的な参加と町内会所有の災害用品の保管など、地域貢献及び地域住民との交流、開かれた事業運営に努めた。

4月22日・5月20日・7月15日・11月18日・1月20日・3月19日 西の里地域たすけあい会議

5月10日 春の一斉清掃(広栄町内会)

7月5日 焼肉親睦会(広栄町内会)

8月7日～10日 西の里地区夏祭り(さくら公園) 会場設営、撤去にも参加

9月18日 車椅子体験学習(西の里小学校)

10月18日 秋の一斉清掃(広栄町内会)

11月10日 ノーマライゼーション意見交流会(北広島西高等学校)

各高等養護学校の見学及び実習生の受入れを積極的に行い、アプローチ及び定員補充に努めた。また、出身校からのアフターケアの受け入れを行い利用者支援に努めた。

障がい特性に対応した定期的なアセスメントや日々の相談支援を適宜行い、利用者個々の意向を踏まえた個別支援計画に基づく個別支援の充実を図った。また、通院同行支援や血圧測定器、防災用品を導入するなど利用者の健康状態の把握や健康管理、防災対策に努めた。

利用者への質の高い支援やサービスの提供を図るため、積極的に外部研修へ参加するとともに、内部研修を実施し、支援職員の資質向上に努めた。

<内部研修テーマ> 「アンガ マネジメント」「虐待防止」「食中毒」「インフルエンザ」
「AEDの使用法」「知的障がいについて」「障害者差別解消法」

グループホーム増設に向け、建設予定地の地盤調査・測量調査を実施するとともに、快適な住環境・良質な支援環境となる設計の検討を進めた。また、建設予定地である、西の里中央町内会役員及び班長会議において増設に係る説明会(6月17日)を行った。

建設にあたり、社会福祉施設等施設整備費の国庫補助金申請を行ったが、採択とならなかったことから、平成28年の建設は見送った。

2-8 陽だまり

1. 施設運営・福祉事業

平成27年度は、5名でスタートしたが、20歳を迎えた児童や自立生活を希望する児童3名が退所したことから、入居者の充足を図るため、施設見学を実施したが、体験入居実施には至らなかった。

各関係施設との連絡会議や関係施設職員を講師とし、全利用者に集団ワークや交流会を開催したほか、年間を通じて必要に応じて個別ワークを実施した。また、利用者の自立促進に向けてメンタル面での安定を図るため、精神保健福祉センターを始め、医療機関との連携・活用に努めた。

利用者の特性に応じた支援体制強化を図るため、利用者のメンタル面など、個別課題に対応して医療機関の受診や児童相談所の訪問指導などを必要に応じて実施した。

利用者の多様なニーズに応じた支援が可能となる人材の育成を図るため、外部研修への参加や内部研修により支援職員の資質向上に努めるとともに、医師会主催の医療講演会へ利用者とともに参加し、利用者の健康管理に努めた。

< 内部研修テーマ > 「社会的養護に関わる人に、考えてほしいこと」
「コミュニケーションと基本的行動の重要性」

近年多発する自然災害や火災に対応するため、防災用品を追加設置し、施設の更なる防災対策に努めた。

利用者の生活歴や性格行動面の把握・分析のもと、本人の意向を尊重しつつ、自立に向けた目標を盛り込んだ児童自立生活援助計画を児童相談所と連携を図り策定し、これに沿った支援に努めた。また、自立促進と目標実現に向けた動機付けをするため、児童相談所への訪問や面接指導、就労場所での激励等を実施し支援機会の確保に努めた。

利用者の各就労先との連携を図り、定着支援の促進に努めたことから、同事業所での就労継続となった。また、法人内事業所も活用し、就労に至った。

社会適応力や生活の質の向上を図るため、希望者を対象に就労・社会生活を送る上で必要となる補習教育を行い、検定試験受験や手話講習を実施するとともに、自立心の助長や社会参加に向けた意欲の向上を目的として、レクリエーション(ボウリング・野球観戦)や社会見学を実施した。

また、清掃活動など町内会行事へ参加し、地域交流を深めた。

< 5月10日 中央町内会春の一斉清掃 7月12日 中央町内会焼肉親睦会 >

2 - 9 ポプルス(特定相談支援事業)

1. 施設運営・福祉事業

地域の相談事業所との合同会議や札幌市基幹相談支援事業所の研修会等へ積極的に参加するとともに、各相談事業所や各種障害福祉サービス事業者との情報交換や意見交換を図り、ネットワークの構築に努めた。

障害福祉サービス等利用計画の作成契約数は、47件あり、利用者及び家族等の意向を十分に取り入れた計画を作成するとともに、適時モニタリングを実施し、適切なサービスに繋がっている。

サービス等利用計画以外の一般相談の受付数は14件あり、障がい特性に適した助言と福祉サービス等の情報提供を行うとともに、主治医と連携して、障害年金受給申請等の手続きを行うなどの相談支援に努めた。

サービス等利用計画の作成技術の向上を図るため、研修会等に参加し、計画内容及びアセスメント方法について研鑽を重ねた。

経営健全化推進中期計画 実績報告(平成27年度)

計画内容	平成25年度	平成26年度	平成27年度実施報告	
1. 福祉サービスの充実と質の向上				
利用者支援の充実	作業訓練や生活支援に求められる多様化する利用者ニーズに対応できるよう、支援体制の構築とサービスの充実を図る			
<p>様々なニーズに対応できる利用者支援体制の構築</p> <ul style="list-style-type: none"> 苦情・相談援助の強化、高齢化・障がいの重度重複化への対応を強化する 自立支援課と各課との連携強化を図る 利用者虐待防止の取組みを継続して行う <p style="text-align: right;">【クリーナーズ】 【おおぞら】 【エルフィン】</p>	<p>体力的に衰えて来ている利用者には徐々に量的作業から質的作業へと転換を図った</p> <ul style="list-style-type: none"> 長期休養していた利用者2名に対し作業スペースを確保し、ユニフォーム、タオル等のたため作業を軽作業的に行った 毎月の個別支援計画作成会議と平行して職員間連絡会議を開催し、利用者支援の強化を図った 利用者虐待防止について全職員対象に勉強会を実施 <p style="text-align: right;">【クリーナーズ】【おおぞら】【エルフィン】</p> <ul style="list-style-type: none"> 個々の障がいに合わせた相談支援の実施 特に細かな支援の必要な利用者については家族と連携して対応強化中 <p style="text-align: right;">【おおぞら】</p> <ul style="list-style-type: none"> 各事業所就労支援部門との連携強化 <p style="text-align: right;">(4月~)</p> <ul style="list-style-type: none"> 利用者の要望に基づく共同生活ルール改善(8月) 世話人の勤務ユニット及び業務タイムスケジュール見直し(8月) 診療所や作業所と連携を図り、利用者の健康状態把握に努め、疾病予防や服薬管理・使用等のきめ細かな指導や病院の引率支援を行った <p style="text-align: right;">【エルフィン】</p>	<ul style="list-style-type: none"> 障がいの重度化や持病、高齢等により体力的に衰えている利用者に対し、本人の意向と家族の理解を得ながら量的作業から質的作業及び軽作業への転換を継続的に実施 月2回実施の個別支援計画作成会議を通じて利用者支援の充実と強化を図ることと併せ利用者家族と連携を取りながら細かな配慮に努め利用者支援に繋げた 利用者虐待防止について事例に基づいた自主研修会を全職員対象として実施 <p style="text-align: right;">(平成27年度より個別支援計画作成会議を月1回 月2回に変更) 【クリーナーズ】</p> <ul style="list-style-type: none"> 障がいの重度化や重複化及び年齢等により体力的に衰えている利用者に対し、本人の意向を踏まえ家族等とも相談しながら作業の転換を継続的に実施 個々の障がいに合わせた相談支援の実施 利用者虐待防止について自主研修会を福祉事業職員対象として実施 毎週の個別支援計画作成会議と平行して毎朝職員間連絡会議を開催し、利用者支援の強化を図った 利用者虐待防止について福祉事業職員対象に勉強会を実施 各事業所就労支援部門との連携強化を図った 期間中2名が一般就労 特に細かな支援の必要な利用者については家族と連携して対応 <p style="text-align: right;">【おおぞら】</p> <ul style="list-style-type: none"> 体力的に衰えて来ている利用者には徐々に量的作業から質的作業へと転換を図った <p style="text-align: right;">【おおぞら】</p> <ul style="list-style-type: none"> 診療所や作業部門との連携を図り、利用者の健康状況を把握し、きめ細かな指導に努めるとともに通院等への必要不添支援等を行った <p style="text-align: right;">【エルフィン】</p> <ul style="list-style-type: none"> 虐待防止に向け、世話人を対象とした勉強会実施(7月)就業規則を徹底(9月) 利用者の個々の意向を元にした個別支援計画を作成し、各人の心身状況、障がい状況に適合したサービスに努めた 高齢障害者の課題(5月)発達障害の特性(9月)インフルエンザについて(11月)等の研修を行いサービスの向上を図った <p style="text-align: right;">【エルフィン】</p>		
支援体制の強化	<ul style="list-style-type: none"> 多様化するニーズに対応・日常生活支援、職業指導の充実/支援者のスキルアップ 重度化、高齢化、障害程度の変動等に対応した支援(施設入所・生活介護事業) <p style="text-align: right;">【エイト】</p>	<ul style="list-style-type: none"> 4月から専門職合同の日次カンファレンスを実施し、支援情報等の共有を図った 福祉事業職員に対する内部研修を月1回実施 日常生活支援、入浴支援、通院支援等の質的・量的向上(入浴排せつ・衣類着脱等介助、夜間支援、清掃支援、金銭管理などに関する相談対応、指導助言等を強化) 栄養ケアマネジメント導入に向けた準備を行った 生活介護の日中プログラムの充実が継続課題 	<ul style="list-style-type: none"> 専門性の習得、援助技術・資質の向上、支援情報等の共有を図るため、福祉事業職員研修・利用者支援連絡会議・日次カンファレンス・支援会議等を継続して実施 生活支援補助員の配置等により、入浴・排せつ・身体介助、通院支援等の個別対応を強化した 生活支援員・看護師・管理栄養士の共同による生活習慣病等の改善に向けた相談・支援を実施 4月から栄養ケアマネジメントを導入するとともに、療養食の提供を開始した 夜間支援体制を1名から2名体制へ移行した 利用者ニーズに応じた創作的活動・レクリエーション等の内容を拡充した 施設入所支援(生活介護)利用者の平均障害支援区分は、年度当初の3.3から3.7へ上昇した 	<ul style="list-style-type: none"> 「アンガーマネジメント」(8月、3月)、「虐待防止」(9月、3月)、「知的障がいについて」(2月)、「障がい者差別解消法」(2月)といった世話人研修を実施さらには世話人全員に「基本理念」の周知・徹底を再度実施 定期的なアセスメントや、日々の相談支援を適宜行い、個々の個別支援計画に基づく個別支援の充実を図った <p style="text-align: right;">【エルフィン】</p> <ul style="list-style-type: none"> 年間研修計画に基づき、階層別・職種別及び個々のキャリア・スキル等に応じた外部職員研修へ積極的に参加し、虐待防止、介護技術実践、グループワークや課題別勉強会等の内部研修を適時実施し、利用者支援に対する共通認識の確保と援助技術等の向上に努めた 生活介護の日中活動でリハビリ支援や屋内外レクリエーション等を実施し、個々の心身状況や利用ニーズに配慮したプログラムの提供に取り組んだ 障がいの重度化や高齢化、個々の心身状況等に応じた日常生活支援を提供し、残存能力の絶対向上及び高齢者の安定を図るとともに、QOLの向上に努めた。平均障害支援区分は前年度の3.7から3.8へと上昇した

計 画 内 容	平成25年度	平成26年度	平成27年度実施報告
就労移行支援の取り組み強化 ・一般就労希望者への就労移行支援の促進 ・就労移行支援事業利用者向けSST等のプログラムを実施 ・年度において、2名の一般就労を目指す 【エイト】	・石狩圏域障がい者雇用支援ネットワーク協議会への参画 ・就労支援員の就業支援基礎研修ほか各種研修会への参加 ・個別面談の実施、模擬面接訓練・企業職場実習・求人登録等の支援を実施 ・前年度の一般就労者に対する定着支援を継続実施 ・今年度の就労実績なし	・一般就労した方への職場訪問や相談支援等の定着支援を継続 ・石狩圏域障がい者雇用支援ネットワーク及び北広島市就労支援情報交換会等への参画による地域事業所間のネットワーク構築に努めた ・一般就労に向けた個別相談、面接訓練、職場実習、求職登録、企業見学等を継続して実施した ・下期において利用者1名が採用内定を受けた (平成27年4月1日就労)	・一般就労に向けたアセスメントや面接訓練、職場実習、求職登録、SST等を実施するとともに、利用者の意向や家族との定期的な連絡及び相談を通じて、一般就労に対する理解や就労意欲の向上に努めた ・一般就労した方への職場訪問や相談支援等の定着支援を継続 ・4月に1名が一般就労し次年度の雇用が決定
就労支援における作業領域の拡充/職業指導体制の充実 ・多様化するニーズへの対応と作業領域拡充のための軽作業等の進展と作業指導の充実 【エイト】	・軽作業部門：新規作業の取り入れにより作業内容を拡充 ・職業指導員の担当再編による個別支援の実践 ・全部門職員による軽作業部門への巡回支援を実施 ・職業指導員への援助技術・支援方法等の個別指導を適時実施 ・製本部門において利用者作業スペースを拡張	・全職業指導員による軽作業部門の巡回支援を継続して実施 ・印刷事業に限定しない受託作業を取り入れ、軽作業部門における就労支援の拡充を図った(菓子箱等組立、ペットボトルラベル貼、ゼリー検品、食品パッケージラベル貼等) ・障がい特性等に応じて作業手順の視覚化・作業のルーティン化・課題の個別化等の支援を実践した ・感覚・知覚過敏や認知状況等に配慮した少人数・個別作業、クールダウン環境等の提供に努めた	・多様化する利用者ニーズや障がい特性、健康状態等を踏まえて、作業訓練内容・作業訓練時間・作業訓練環境などに配慮した就労支援を行うとともに、個別面談を適時実施し、精神的・情緒的安定を図りながら、就労に関わる基本的習慣の確立と作業意欲・作業能力の維持向上に努めた ・前期に引き続き、菓子箱組立等の簡易作業を受託し、軽作業部門における就労支援の充実を図った
就労移行支援事業の充実 ・利用者の希望等から、支援プログラムの構築を行い、就労移行支援事業利用者の支援の充実を図る 【福祉企画室】	・各施設就労移行支援事業において継続検討している	・各施設における支援プログラムに基づき、企業見学や実習先の拡大を図るなど、就労移行支援事業の充実・強化に努めた	・各施設において企業見学・実習先の拡大や地域ネットワークの構築に努めるとともに、一般就労移行利用者の職場訪問や相談支援等の定着支援を継続し、就労移行支援事業の充実・強化に努めた
ヒアリングによる利用者の支援 ・日常の関わりとは別に時間を設けてこまめに利用者とのヒアリングを行い、心身の変化を察知しながら支援を行う 【ワーク】	・看護師と支援員が連携を図り、個別に利用者個別から聞き取りを行い、利用者の施設内での活動状況を観察しながら、利用者個々に合わせた支援に努めた	・利用者の心身状態に合わせ、看護師と支援員が連携し、利用者個別に面談を行い、その利用者に向けた支援に努めた	・利用者の心身状態に合わせ、看護師と支援員が連携し、利用者個別に面談を行い、24時間シートを利用し、その利用者に向けた個別支援に努めた
クリーナーズ事業部の支援体制整備 ・リハビリー・クリーナーズ、リハビリー・おおぞら、エルフィンホームの事業所体制の再編成 【法人本部】	・リハビリー・クリーナーズ、リハビリー・おおぞら、エルフィンホームとクリーニング事業部の事業体制の再編成を実施(4月)		
給食サービス業務の見直し ・給食サービス業務の見直しを行い、新給食サービス業務を実施 【総務課】	・より良い給食サービスの提供に向けてセレクト食やイベント食等を取り入れた、新たな給食サービス業務を実施(4月～)		

計 画 内 容	平成25年度	平成26年度	平成27年度実施報告
事業体系の見直し及び新事業の開始等	既存事業所の安定した事業運営のために、事業見直しの検討と新事業の開始に向けた計画的な準備を進めるとともに、利用者の意向等を踏まえた、住まいの場の新たな設置についての検討も行う		
「ウェルプラザやまはな」単独化に向けた検討 ・準備期間(平成25～26年)において収益構造を構築 【セルブ】	<ul style="list-style-type: none"> 「ウェルプラザやまはな」単独化は、職員の内部研修の継続、収益状況の確認をするとともに、単独化した際のシミュレーションを行い、メリット・デメリット等を洗い出し検討を進めている。また、クリーナースおよびクリーニング事業部の今後の動向に合わせ、連携・対応等の調整を行いながら収益性の検討についても進める 住まいの場について、将来的にGH利用を検討されている方に、市内のGHと連携して見学や体験利用を進めた 	<ul style="list-style-type: none"> 「ウェルプラザやまはな」単独化について、売上動向や収支状況、作業体制など想定される問題や課題について検討を重ねた結果、現在の建物では面積的にも法規制上も作業量増、利用者増への対応に限界があり事業の発展性が低いこと、また、単独要件を満たすためには人員配置が必要となるが、クリーニング事業の収益性の低下など現状では単独化のメリットが見出せないことから、当分の間、従たる事業所として継続運用していくこととした 	
住まいの場の設置についての検討 ・平成27年度に向けて「住まいの場」について引き続き検討を重ねていく ・GH検討会(ワークセンターと共同)にて検討 少数のGH等の希望があった際には市内の施設と連携を図り対応する 【セルブ】	<ul style="list-style-type: none"> 住まいの場について、将来的にGH利用を検討されている方に、市内のGHと連携して見学や体験利用を進めている 	<ul style="list-style-type: none"> 住まいの場について、将来的にGH利用を検討されている方に対して、法人内外のGHと連携して見学や体験利用などを勧めた 	<ul style="list-style-type: none"> 平成28年度以降の「住まいの場」開設希望について継続的に情報収集しながら、見学や体験入所等の相談があった場合には法人内外のGHを紹介した
グループホーム等の増設 ・グループホーム・ケアホーム等の増設に向けた検討 【福祉企画室】	<ul style="list-style-type: none"> グループホーム・ケアホーム等の増設に向けて継続検討中 	<ul style="list-style-type: none"> 平成27年度社会福祉施設整備費補助金を活用し、北広島市西の里東地区に1ユニット8名規模のグループホームを増設することを決定した 	<ul style="list-style-type: none"> 平成28年度社会福祉施設整備費補助協議書を道に提出するとともに、設計業務等を委託するなどの準備を進めたが、補助金は不採択となった。
指定特定相談支援事業所設置 ・相談支援事業所設置へ向けた検討 【福祉企画室】	<ul style="list-style-type: none"> 指定特定相談支援事業所設置に向けて国の動向を注視しつつ継続検討している 	<ul style="list-style-type: none"> 札幌市清田区の札幌ワークセンター内に、指定特定相談支援事業所「ポブルス」を開設した(1月) 	
自立援助ホームの開設運営 ・自立援助ホーム運営懇談会の設置 (4月) ・利用者の就労支援計画の策定 【陽だまり】	<ul style="list-style-type: none"> 第1回運営懇談会の開催(4月) 児童自立生活支援計画の策定(7月) 補助指導員の増員・支援体制の強化(8月) 前庭・駐車場等外構整備工事の実施 (8月～10月) 栄養バランスのとれた食事を提供と、宅配業者からの食材購入を行うことで食事サービスの効率化を図った(8月) 関係職員を研修等に積極的に参加させ、指導力の向上や人材育成に努め、相談・就労支援等の充実強化を図った 	<ul style="list-style-type: none"> 北海道立向陽学院との継続的連携(4月～) 児童自立支援計画策定の改訂(5月) 北海道若年者就職支援センター(ジョブカフェ)、わかものハローワーク等の活用・連携 (5月～6月) 栄養バランスのとれた食事提供と食事サービスの効率化の観点から宅配業者の活用(1日1食から2食分の食材購入)拡大(8月) 利用者の社会体験活動の充実化(7月～9月) 関係職員の施設外研修成果等を勉強会として実施(8月、11月)し、虐待防止や指導力の向上など人材の育成に努めた 定員5名を充足(3月) 	<ul style="list-style-type: none"> 北海道立向陽学院との連携による継続的支援を受けるとともに交流を図った(4月～) 民間事業所の他、法人内事業所を活用し、自立に向けた就労支援を行った 生活状況の分析と意向を尊重した自立生活援助計画を関係児童相談所と連携を図りつつ、策定・見直し、これに沿った支援を行った(5月～) 施設外研修成果を活用するなどして、勉強会を実施(7月、8月)し、指導力の向上など人材の育成に努めた 社会適応力や社会参加意欲の向上を目指して、レクリエーションや社会見学、補習教育を実施した。また、ボランティア活動や地域との交流に努めた

計 画 内 容	平成25年度	平成26年度	平成27年度実施報告										
<p>定員充足及び定員利用率の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> 現A型利用者の最低賃金支給者の拡大及び最低賃金支給を前提とした新規A型利用者の獲得に努め、3年後までに定員利用率100%に近づける 積極的にハローワークとの連携を図るとともに、高等養護学校等にもアプローチをかける 同時におおぞらA型利用者の作業内容や種類について見直しを図り、専属の職業指導員の配置し作業指導の充実に努める A型利用者の作業能力向上により、パート及び契約職員の人件費の圧縮を図る 就労移行支援利用者の定員の充足を図るため高等養護学校や特別支援を行っている専門学校に訪問し実習生受け入れを行う 同時におおぞら施設のB型利用者の作業内容や種類についての見直しを図り障害程度に見合った段階的作業を検討実施する。また訓練しやすい作業環境の工夫を行い、施設全体の利用満足度を高めていく(検討協議後実施) 【おおぞら】 	<p>定員充足に向けて高等養護学校、各関係機関等と連携を綿密に図り、各事業のPR・施設見学・作業実習の受け入れ等を継続して利用者の状況にあった作業や生活支援内容等の検討を行い、新規利用者の獲得に努める</p> <ul style="list-style-type: none"> 高等支援学校等から積極的な実習生の受け入れを行った A型利用者の受け入れ実施した B型利用者の作業内容等について見直しを図り、障害程度に見合った段階的作業を検討実施した 就労移行支援事業利用者が一般就労となり、現在は定着支援の実施中 新規利用者 就労移行支援 2名 就労継続B型 3名 就労継続A型 3名 計8名 	<p>積極的にハローワークや相談事業所との連携を図り新規A型利用者の獲得に努めた</p> <ul style="list-style-type: none"> 就労移行支援利用者の定員の充足を図るため高等養護学校や特別支援を行っている学校を訪問し実習生受け入れを行った 同時におおぞら施設のB型利用者の作業内容や種類についての見直しを図り障害程度に見合った作業を検討提供した。また、訓練しやすい作業環境の工夫を行い、施設全体の利用満足度を高めるよう努めた 平成25年度からの中期計画において、3ヵ年で定員充足100%を目標としたが、1年前倒しで目標達成となった <table border="1"> <tr> <td>新規利用者</td> <td>就労移行支援 1名</td> <td>就労継続A型 10名</td> <td>就労継続B型 5名</td> <td>計16名</td> </tr> <tr> <td>利用者</td> <td>就労移行支援 3名</td> <td>就労継続A型 27名</td> <td>就労継続B型 68名</td> <td>計105名</td> </tr> </table>	新規利用者	就労移行支援 1名	就労継続A型 10名	就労継続B型 5名	計16名	利用者	就労移行支援 3名	就労継続A型 27名	就労継続B型 68名	計105名	<ul style="list-style-type: none"> 新規利用者 就労移行支援 5名 就労継続A型 1名 就労継続B型 2名 計8名 平成28年度3月末在籍 108名
新規利用者	就労移行支援 1名	就労継続A型 10名	就労継続B型 5名	計16名									
利用者	就労移行支援 3名	就労継続A型 27名	就労継続B型 68名	計105名									
<p>新規利用者確保の促進(高等養護学校・福祉関係団体との連携、PR・見学・実習の受け入れを継続実施)</p> <ul style="list-style-type: none"> 第1段階 利用者の定員充足100%を目指す 目標値：B型事業 現員+5名 生活介護 現員+2名 在籍利用者(通所)の利用率UPに向けた支援 【エイト】 	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援学校からの実習を積極的に受け入れ(25人) 施設見学の受け入れ(27団体) 新規利用者 就労継続B型 2名 就労移行 2名 計4名 3月末現員 生活介護 42名 就労継続B型 31名 就労移行 3名 第2期中期計画の初年度目標利用者数に達せず 	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援学校等からの実習受け入れ(12件) 施設見学の受け入れ(20団体) 支援課・営業課合同による特別支援学校への訪問活動を実施し、施設利用と印刷受注の促進に努めた 新規利用者：生活介護 2名 就労継続B型 6名 就労移行 2名 計10名 3月末現員：生活介護 44名(定員40名) 就労継続B型 36名(定員34名) 就労移行 5名(定員6名) 総定員80名に対し現員85名と総体充足率は106%となった 	<ul style="list-style-type: none"> 施設見学・体験利用等を積極的に実施し、定員充足と利用率の向上に努めた(新規利用者4名・実習10件(24名)・施設見学20件(295名)) 利用者の総定員充足率は102.5%(定員80名/現員82名)となった 就労継続支援B型事業は目標の前年比+4名に対し-2名(定員34名/現員35名) 就労移行支援事業は目標値の前年比+1に対し-1名(定員6名/現員2名) 生活介護事業は目標の前年比+4に対し±0名(定員40名/現員44名) 総定員は目標値の前年比+9名に対し-1(定員80名/現員82名)となった 退所者7名・新規利用者4名 退所理由：施設替2名・自己都合5名 										
<ul style="list-style-type: none"> 高等養護学校や実施機関等を訪問し各事業のPR等を行う、また、相談支援事業所等と情報交換を行い連携して新規利用者確保の活動を行う 通所による生活介護利用者の利用率増に注力し、利用率85%を目指す フェリス利用率増(利用者個々の接客技術向上指導をしながら利用率増を目指す 【ワーク】) 	<ul style="list-style-type: none"> 高等養護学校及び区内の相談支援事業所等との関係強化により5名の実習生(B型利用希望者1名、生活介護利用希望者4名)を受け入れ、内2名が年度内の既利用者となり、4名(内1名エルフィンホーム利用者)が次年度の新規利用者に繋がった 	<ul style="list-style-type: none"> 高等養護学校及び相談支援事業所等との関係強化・協働により、施設入所支援事業3名、就労継続支援B型4名、生活介護事業9名、B型と生活介護併用1名の新規利用者を受け入れるに至った 生活介護事業の利用料についてはサービス内容等の工夫等を行ったことで87.3%となり目標値を達成した フェリスについては、近郊に民間のクリーニング店ができたことで収入減となり、また、接客等が難しい利用者が増えてきたことから9月30日を以って閉店した 	<ul style="list-style-type: none"> 相談支援事業所等との関係強化・協働により、施設入所支援事業1名、就労継続支援B型1名、生活介護事業2名の新規利用者を受け入れるに至った 生活介護事業の利用率については、昨年度以上に利用者ウオンプを取り入れ、サービス内容等の工夫等を行ったことで98.6%となり大きく目標値を達成した 										

計 画 内 容	平成25年度	平成26年度	平成27年度実施報告
<ul style="list-style-type: none"> 新規利用者確保のため、各学校へ就労移行支援の取組みを重点的にPRする 就労移行のサイクルを確立させ、就職希望の利用者が集まる施設を目指す【セルフ】 入居利用者の定員充足の活動を行いながら、サービスの質の向上を図り円滑な事業運営をする 【エルフィン】 利用促進活動の強化、養護学校・行政関係機関等へのPR、見学・実習の受入れ促進【福祉企画室】 	<ul style="list-style-type: none"> 新規利用者の獲得のため見学や実習を積極的に受け入れているが、2年後、3年後の利用者確保に向け、高等養護学校1・2年生や中学生(特別支援学級)の体験実習も年間を通して受け入れた 就労移行支援を積極的に行い、高等支援学校や各相談支援事業所、ハローワーク、就業・生活支援センター等から就職を希望している利用者の紹介が出てきた 高等養護学校等との連携強化、実習生の受入れ等(4月～) 各施設において継続検討中 	<ul style="list-style-type: none"> 高等養護学校から見学・実習生の受入れ(7月、9月、1月) 新規受け入れ(7月、9月、3月) 各施設において、養護学校等へのPRを強化し、見学・実習の受入れ促進に努めた 	<ul style="list-style-type: none"> 支援学校等の卒業予定者が進路としてA型事業所を希望する傾向にあり、実習依頼が減ってきているため、学校と継続的に連絡をとりながら来春の入所希望者を獲得できるよう働きかけた 各高等養護学校と連携を図り見学の受け入れ(7月、8月、9月、12月)や実習の受け入れ(10月)・相談に応じた 各施設において養護学校等との連携PRを強化し、将来的な利用者確保に向け1・2年生や中学生段階から体験実習を受け入れ、見学・実習の受入れ促進に努めた
送迎サービスの体制強化	既存の通所送迎サービスについて、利用者ニーズを踏まえた送迎内容の検討を進め、更なるサービスの充実を図る		
通所利用者の送迎サービスの継続 (新札幌・近隣) <ul style="list-style-type: none"> 平成24年度から実施した新札幌送迎サービスを継続実施 利用ニーズによってルート、停留所の追加変更等を検討【エイト】 	<ul style="list-style-type: none"> 新札幌送迎を継続実施(エイト4名利用ほか実習生利用) 近隣地域へドア to ドア送迎を継続実施(12人/日) 重度者、通所困難者等の送迎を個別対応により適時実施 	<ul style="list-style-type: none"> 通所送迎サービスについて、近隣地域及び新札幌駅への定時送迎を継続実施した。また、生活介護事業等の一部利用者について自宅までの個別送迎を実施した 新札幌間の定時送迎：5名+実習生 近隣地域へのドア to ドア定時送迎：7名 自宅までの個別不定時送迎：5名 	<ul style="list-style-type: none"> 障がい、状況や家庭環境、地域状況等を考慮し、自力での通所が困難な方に対するドア to ドアの個別送迎を拡充するため、各課連携による送迎協力体制づくりを進めた 新札幌間の定時送迎：7名+実習生 近隣地域へのドア to ドア定時送迎：9名 自宅までの個別送迎：4名
送迎サービスエリアの拡大検討 【ワーク】	<ul style="list-style-type: none"> 利用者の希望時間及び利用者間の人間関係に配慮した乗車割、走行ルートの変更等を行い、利用者ニーズに寄り添ったサービスの充実に努めた 	<ul style="list-style-type: none"> 通所による生活介護利用者の利用増に合わせた送迎サービスエリア拡大を図った 	<ul style="list-style-type: none"> 通所による生活介護利用者の利用増に合せ、送迎サービスエリアの拡大及び送り時間を複層設定し、利用者ニーズに応えるように努めた
通所送迎サービスの拡大検討 <ul style="list-style-type: none"> 利用者ニーズを調査し、近隣地域の範囲、JR駅・地下鉄駅などへのアクセス経路の拡大検討【福祉企画室】 	<ul style="list-style-type: none"> 現行「新札幌駅 西の里施設」送迎バスの定時運行の他に8月からドア to ドア送迎をモデル実施した 	<ul style="list-style-type: none"> 近隣地域及び新札幌駅への定時送迎の他、利用者ニーズに対応したドア to ドア送迎を各施設において実施し、送迎サービスの充実に努めた 	<ul style="list-style-type: none"> JR新札幌駅への送迎車両を2車体制に強化するとともに、各施設において利用者ニーズに対応したドア to ドア送迎サービスの充実に努めた
福祉サービス第三者評価の受審	事業運営における問題点を具体的に把握し、サービスの質の向上に結びつけることができるよう、第三者評価の受審に向けて準備を進める		
<ul style="list-style-type: none"> 事業運営における問題点の点検【法人本部】 	<ul style="list-style-type: none"> 8月27日開催の幹部職員研修会で、吉村監事から第三者評価事業について講義を受け、評価基準や評価のポイントなどを参考に、各施設で自己評価しつつ問題点の点検に取り組んでいる(研修テーマ「確かな自己評価で満足を共有する施設経営～第三者評価による利用者満足の経営改善～」) 	<ul style="list-style-type: none"> 11月12日に「福祉サービス第三者評価に関する事前説明会」を開催するとともに、平成27年度からの受審に向けて、全事業所において自己評価を実施した(1月～2月) 	<ul style="list-style-type: none"> セルフさっぽろ及び札幌ワークセンターにおいて福祉サービス第三者評価を受審した

計 画 内 容	平成25年度	平成26年度	平成27年度実施報告
2. 就労支援事業の改善等			
工賃収入の安定的確保	工賃収入の安定確保のため、得意先の新規開拓及び販売商品の開発等を継続して行い、マッチング事業や優先発注制度等を積極的に活用する		
工賃収入の安定的確保 <ul style="list-style-type: none"> ・新規開拓と商品販売開発は従来からの継続 ・営業は少ない人員構成の中で効率的な活動していくため配送等の無駄な動きを徹底排除した。新たな営業活動のスタイルを確立する ・布団絨毯の集配、商品関係の配達等については営業企画課でフォローする体制を構築【クリーナーズ】【おおぞら】 	<ul style="list-style-type: none"> ・計画継続中 【おおぞら】 ・施設の生産能力に合わせた新規開拓と商品販売開発については継続中。 ・布団絨毯の集配は外注先に集配・集金業務を7月から委託し、担当営業を本来の営業活動中心に展開をさせた。また、配送の自社の人員を含めた外注化も交渉中で、本年度内には完結させたい <p style="text-align: right;">【クリーニング事業部】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新規開拓、減額、解約等によりクリーナーズ、おおぞらを含めた26年度は(2,100千円)増の売上げを確保。無駄をなくした営業活動に取り組み現在営業人員1名不足の状況が続いている ・布団・絨毯を含めた外注化は、問題なく進行している。また、自社便見直しも進めているが27年度からの新規物件導入もあり、新規外注 ルートを含めた検証を早急に行う事とした <p style="text-align: right;">【クリーニング事業部】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新規開拓への取り組み及び、他事業となるべく業務の受注、取組を行い引き続き継続中 ・営業及び業務の効率化を実施 営業担当者の増員を含め、無駄のない営業活動スタイルを確立した ・布団・絨毯等に係る業務を26年度に外注し、検証状況も問題がないことを確認 <p style="text-align: right;">【クリーニング事業部】</p>
マッチング事業の活用 <ul style="list-style-type: none"> ・法人他事業所や地域企業とのマッチング事業を検討、目標工賃達成指導員を中心に開発を進める【クリーナーズ】【おおぞら】 	<ul style="list-style-type: none"> ・法人他事業所や地域企業とのマッチング事業について具体的な進展はないが、北広島市就労情報交換会において関係する情報交換を継続して行っている 【クリーナーズ】 	<ul style="list-style-type: none"> ・法人他施設との軽作業共同受注に関する情報交換会を実施。また、関係機関や地域企業との情報交換や相互見学も併せて実施した <p style="text-align: right;">【クリーナーズ】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・関係機関や地域企業との情報交換、相互見学を引き続き実施している 【クリーナーズ】
<ul style="list-style-type: none"> ・得意先の新規開拓(継続・強化・新規顧客開拓チームの編成) ・既存顧客の深耕によるインスタシアの拡大/担保物件の獲得 ・紙媒体に限定しない周辺ニーズの取り込みと企画・提案型の営業活動の進展 ・マッチング事業及び平成25年度施行の新たな優先発注制度等の積極的な活用 ・スクリーン印刷の販売促進 <p style="text-align: right;">【印刷事業部】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・既存の営業体制内に新規顧客開拓担当者を編成し進展を目指したが既存顧客対応に時間を費やし、当期の新規取引顧客数は194件、受注額は25,719千円にとどまり課題を残す結果となった ・既存取引顧客でのシェア深耕・拡大実績は1,044物件、受注額は99,460千円、前年比112%と一定の成果を得た一方で定期刊行物等の担保物件の獲得には苦戦を強いられた ・イベント関連品・CD/DVD 媒体・広告看板・WEB等の周辺ニーズの受注を継続促進 ・4月に施行された「障害者優先調達推進法」については、近隣市町村へのPR営業活動を行ったが、大多数の自治体において具体的方針が策定されていない状況のため、今後の動向に注視して積極的な受注活動を継続することとする ・スクリーン印刷の売上実績は、物件毎の受注ロット減等により、前年比72.6%の5,433千円と低調に推移した 	<ul style="list-style-type: none"> ・新規顧客開拓推進者を定めて新たな得意先の獲得に努めたが、営業員の退職等により十分な営業活動が展開できなかったため、体制補強を含めて来期の継続課題とした (新規取引顧客数183件、受注物件数235件、受注額17,499千円) ・既存顧客でのシェア深耕・拡大実績は1,113物件、受注額は100,652千円、前年金額比で105.2%と微増した ・紙媒体に限定しない印刷周辺ニーズ(イベント関連品・CD/DVD 媒体・広告看板・WEB 関連等)を取り込むとともに、関連業務を含むワンストップサービスを継続して提案した ・障害者優先調達推進法の活用について、北広島市をはじめ近隣市町村への訪問PR活動を継続した。一部の自治体から新規受注を得たが官公需全体を押し上げるに至っていないため、自治体の動向に注視して積極的な受注活動を継続する ・スクリーン印刷の売上は、5,827千円・前年比105.5%とほぼ横ばいで推移した 	<ul style="list-style-type: none"> ・低収益物件・不採算物件の精査と見積額の引き上げを実施するとともに、受注額・収益率・潜在シェア等を基礎とした顧客の分析・ランク付けを行い、既存顧客のシェア拡大と収益が望める得意先への深耕活動を進めた ・既存取引顧客のシェア深耕・拡大実績は、売上件数880件・売上額85,205千円 前年対比86.0%にとどまった。また、売上総件数は12,876件で前年対比91.9%、1物件当たり平均受注単価は45,264円で前年対比+1,283円と微増で推移した ・新規顧客開拓推進を掲げて新たな得意先の獲得に努めたが、営業員の期中退職や顧客ニーズの多様化、受注物件の多品種・小ロット化等により既存顧客対応に時間を要し、十分な営業活動が展開できなかったことから継続課題とした。新規取引顧客数は140件、受注額は19,939千円と前年金額比117.0%の微増で推移した ・デジタルコンテンツ関連として、ホームページの制作及びメテオ入、アンケートの集計処理、CD・DVDの作製、ユーザーの配信などを受注した ・スクリーン印刷の売上は、5,472千円・前年比94%と微減で推移した

計 画 内 容	平成25年度	平成26年度	平成27年度実施報告
<ul style="list-style-type: none"> 得意先の新規開拓 軽作業の確保 ウエス原材料の確保 <p style="text-align: right;">【セルブ】</p> <ul style="list-style-type: none"> B型利用者向けの作業(タオルリネン等)の獲得に力を入れるとともに機械設備計画と連動しながら処理能力の増を図り、新規物件を受け入れられる体制作りを行う <p>【ウェルプラザやまはな】</p>	<ul style="list-style-type: none"> マッチング事業との連携により数件ではあるが新規受注に繋がっている。また、現在取り引き中の顧客の紹介により、新規受注、新規取引に繋がっている物件も出てきた <p>【セルブ】</p> <ul style="list-style-type: none"> 50kg乾燥機を更新したことで処理能力が上がり若干余力は出てきたが、新規物件を受け入れるところまでは至っていない <p>【ウェルプラザやまはな】</p>	<ul style="list-style-type: none"> 現在取り引き中の顧客の紹介やHPなどで、新規受注、新規取引が増えたことにより、受注の安定および作業の確保ができた <p>【セルブ】</p> <ul style="list-style-type: none"> 機械の更新により処理能力が上がったことで若干余力が出てきた分、作業量を増やしていく体制を整えた <p>【ウェルプラザやまはな】</p>	<ul style="list-style-type: none"> 定期物件の受注維持および新規物件の獲得を積極的に取り組み売上向上に努めた <p>【セルブ】</p> <ul style="list-style-type: none"> 店舗の売上高を上げるため、販促品の整備や特殊加工を増やす等集客効果向上に努めた <p>【ウェルプラザやまはな】</p>
<p>就労支援体制の整備及び強化</p>	<p>各事業所における工場の生産体制や組織体制ならびに業務内容等について見直しを行い、OA化による事務処理の効率化を進め、就労支援体制の整備及び強化を図る</p>		
<p>工場生産体制の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> おおぞら新工場建設移設後の新マニュアル作成や各関係機関提出書類等の見直し 工場の生産利益を確保できる人員設備等の体制づくり(部内協議後実施) <p style="text-align: right;">【クリーナース】 【おおぞら】</p>	<ul style="list-style-type: none"> 新設した機械化に伴う生産性を高めるための人員配置と不効率部分の工程を見直し超過勤務と蒸気使用量の削減に至った <p>【クリーナース】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生産体制効率化を図るため、作業棟内一部レイアウト変更 おおぞら新工場の各関係機関提出書類等の作成実施 <p>【おおぞら】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ホームクリーニング外注化に伴い、作業場における品物の流れの効率化を図るため、作業従事者の動線を意識した職場レイアウトの変更を行った 新設の機械化に伴い作業工程と人員配置を見直し超過勤務と蒸気等のエネルギー削減に努めた <p>【クリーナース】</p> <ul style="list-style-type: none"> 工場の生産効率アップの為、人員配置やレイアウト変更など体制見直しを随時実施 新作業棟一斉休日の年間26日実施を定着化した ホテル部門の新規取引に伴う物量の増加及び新工場の生産高効率を踏まえ、クリーナースと連携して生産体制の効率化を図った 	<ul style="list-style-type: none"> ホテル部門の新規取引に伴う物量の増加及び新工場建設後の生産高効率を踏まえ、設備機械の新規導入や部門ごとに入荷から出荷までのレイアウト変更、人員配置の見直しを実施しながら生産体制の構築を図った <p>【クリーナース】</p>
<p>ホームクリーニングのスリム化</p> <ul style="list-style-type: none"> ホクレンの直営店舗数を効率的に整理しつつ、一部外注委託化も検討して店舗展開のスリム化を目指す スリム化による人員再配置も合わせて検討する(店舗展開 スリム化実施) <p style="text-align: right;">【クリーナース】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ホームクリーニングの外注化を次年度より実施することとし、ホームクリーニング担当職員4名のおおぞら施設異動を行った <p>【クリーナース】</p> <ul style="list-style-type: none"> ホームクリーニング外注化により、直営店舗の人員等も含めた交渉を展開していたが、急きよ下洗いのみの外注化となったため、26年度の検査事実となった。また、外交員については、各々の営業的なスキルが低い事から、顧客の新規獲得に繋がっていないため、定期的な勉強会を行い、問題点の把握とスキルアップにつなげる。外交員の見守り業務についても、現在3箇所程しか実施されていないため件数を増やしたい <p>【クリーニング事業部】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ホームクリーニング外注化によりホーム部門人員4名の施設異動に伴い、全部門の作業工程に合わせた内部異動を行った <p>【クリーナース】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ホームクリーニング外注化により他部門の作業量及び必要人員数確保の観点から内部異動を効果的に継続していく。また、ホームクリーニングの中心を担っている直営ホクレン店舗の集客が伸び悩んでいる現状を踏まえ事業部と今後の方針を継続的に検討していく <p>【クリーナース】</p> <ul style="list-style-type: none"> ホームクリーニング業務の一部外注化により、事業自体のスリム化を確立 現在及び今後もホクレン直営店舗の在り方について検討する <p>【クリーニング事業部】</p>
<p>新外交員制度の運用</p> <ul style="list-style-type: none"> 新外交員制度を本格的に運用開始し外交展開の規模拡大を図る 外交員による見守り業務の浸透を図る <p>H24.10月より顧客へのアプローチ開始</p> <p style="text-align: right;">【クリーナース】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ホームクリーニング外注化により、店舗展開のスリム化も実施し、営業時間の短縮など固定費削減に努めた 外交員の定期的な会議を月に1回実施し、スキルアップの勉強会や問題点を検討しあい、今後の外交員拡大を図りたい 見守り業務については、引き続き実施しているが、クリーニング集配を含めた新規の件数が増えない状況である <p>【クリーニング事業部】</p>		

計 画 内 容	平成25年度	平成26年度	平成27年度実施報告
事業部内OAシステムの整理 ・事業部内パソコンの入替、ネットワークシステムの整備と管理委託(部内で現状確認を含め検討)【クリーナース】【おおぞら】	・下半期より次年度に掛け順次更新予定【おおぞら】	・施設内パソコンの入替、ネットワークシステムの整備と管理実施【おおぞら】	
集配業務の見直し ・基準寝具ワンマンルート安定運用を図るため再度見直しを行う(部内検討協議・見直し案作成)【おおぞら】	・クリーナース及びクリーニング事業部との3者で連携し、ルートについて検討中【おおぞら】 ・曜日により2人乗車であった室蘭方面の寝具集配トラックを、1名乗車として月額約21万円の費用削減となった。【クリーニング事業部】	・クリーナース及びクリーニング事業部との3者で連携し、ルートについて適時検討【おおぞら】 ・ルート編成については、顧客の状況及び物量を確認し、安定した集配運用と費用を的確に確認し努めている。今後も、クリーナース、おおぞら及びクリーニング事業部にて3者連携し集配ルートを検討する【クリーニング事業部】	・集配業務に関するルート編成は完了した 但し、今後も顧客状況及び物量状況を適時に確認しルート状況を確認する事とした【クリーニング事業部】
収益改善 - 収益確保 (共通) ・8期連続赤字決算からの脱却～製販合理化を含めた収益改善、低収益受注物件の精査検証等【エイト】		・前期に引続き、受注と収益確保に向けた営業活動に取り組んだ ・低収益物件・不採算物件の精査と適正価格での受注確保に努めるとともに、受注額・収益率・潜在シェア等を基礎とした顧客の分析・ランク付けを行い、シェア拡大と収益が望める得意先への深耕活動を進めた ・下半期当初から受注が伸びずに苦戦を強いられ、計画比減が続いたが、年度末において統一地方選挙による特需があったことから、年間売上高は補正予算比+4,483千円100.7%と計画額を確保した ・月次・年次単位における納期の平準化を図り、極端な生産集中による生産ラインへ過負荷と生産コスト増を低減するために、受注アプローチにおいて可能な限り納期調整に努めた	・就労支援事業の売上高は、年度当初は統一地方選挙関連の特需があったことから好調な滑り出しを見せたが、2四半期以降は商業印刷市場の需要鈍化の影響等を受けて計画額に達しない状況が続いた ・補正予算において決算見込売上高を当初予算比でマイナス4.7%の下方修正を行ったが市場は大きく好転せず、景況も年末に向かってやや失速したことなどから業績は低調に推移し、年度末3月期にやや上昇した分で第3四半期までの減収を補つ結果となった ・売上高は予算比 7,820千円・98.7%前年比 33,264千円・94.6%にとどまった ・低収益物件・不採算物件の精査と見積額の引き上げを行うとともに、受注額・収益率・潜在シェア等を基礎とした顧客の分析・ランク付けを行い、既存顧客のシェア拡大と収益が望める得意先への深耕活動を進めた ・此ルート物件・定期物件への早期アプローチによる再受注の確保に努めたが、顧客事情による印刷物の作成数量の減少や刊行物の廃刊などが影響して、見込物件が計画通りに獲得できず、総体的に受注高が減少した結果となった ・衆議院議員北海道5区補欠選挙に関わる投票用紙の製造を受託した
低稼働率・非効率・低収益生産ライン見直し (支援1・2課) ・稼働率・運用コスト、収益性等を考慮した中で非効率生産ライン、低稼働率・高コスト・低収益生産部門のスケール調整や合理化を適時実施【エイト】	・活版印刷部門を廃止(実施済) ・オフセット名刺等印刷部門を廃止(実施済) ・マスター印刷部門を廃止(実施済) ・プリプレス部門のフィルム版生産を廃止(実施済) ・複写印刷部門の廃止決定/リョービ560オフセット印刷機の廃止と附帯する断裁機等の設備更新取り止め ・日次の生産設備の稼働率分析と生産性を考慮したライン調整 ・1C オンデマンド印刷機の印刷積算料の改定(値上)	・老朽化した複写印刷ラインを停止し、外注化するとともに、附帯する断裁機等の後工程設備の更新を見送った ・ペーパー版を使用したマスター印刷を休止し、軽オフ印刷物件をオンデマンド印刷へ移行した ・中期計画に基づく設備投資について、印刷市場の動向や需要予測、利用者の障がい状況やニーズ等を踏まえて、生産活動の持ち方とともに、見直し・再検討を行うこととした ・昨年度に導入した電力デマンド監視システムの活用を進め、最大需要時の電力使用を生産部門全体で制御し、契約電力のデマント値超過を防いだ	・就労支援事業活動においては、近年の事業状況、印刷市場の動向、印刷技術の進展と設備投資の課題、福祉事業を取り巻く制度や環境、利用者の障がい特性や利用ニーズの多様化等を踏まえて、障害者支援施設における今後の生産活動の持ち方・あり方について内部での議論を進めた ・前2ケ年で実施した生産ラインの合理化を踏まえて、設備稼働率、生産性、受注構成、コスト等を考慮した生産を継続した ・資材調達における見積徴取を徹底し、価格・品質・調達の利便性等を十分調査して購入するとともに、在庫用紙の削減のほか、損紙等の設定比率を抑え予備資材を内校や色校出力に流用するなど、総体的な生産コストの削減に努めた

計 画 内 容	平成25年度	平成26年度	平成27年度実施報告
デジタル印刷/オンデマンド印刷への対応 ・オンデマンドによる小ロット・短納期等への対応及び多様化するクライアントのニーズへの対応。 ・デジタルコンテンツの持ち方検討 【エイト】	・ニーズ対応や生産効率等を考慮して、物件によりオフセット印刷からデジタル印刷へ生産をシフト、オンデマンド部門の生産量は想定以上に増加 ・デジタルコンテンツの持ち方については、人員配置・人材状況等も踏まえて継続検討	・顧客ニーズ、設備稼働状況、生産能力、製造コスト等を勘案して、PODとオフセット印刷の生産調整を図った ・デジタルコンテンツの持ち方については継続検討中	・稼働率が上昇しているPOD印刷のコスト削減策として、4月からカラーオンデマンド印刷機のカウンター保守契約料金を見直し、ランニング費用の削減を図った ・多品種・短納期・少ロット等の需要に対応するため、顧客ニーズや要求品質程度、設備稼働状況、製造コスト等を勘案してオンデマンド印刷とオフセット印刷の生産配分の最適化を図るとともに、今後の印刷市場の動向や顧客ニーズ等を見据えて、オフセット印刷とPOD印刷双方の利点を生かした効率的な生産体制の構築に向けた検討を進めた ・デジタルコンテンツの持ち方については継続検討中。受注状況：ホームページの制作及びメンテナンス、アンケートデータの集計処理、CD及びDVD媒体の作製など
組版部門の機器の統一化に向けた検討 (支援1課) ・作業効率の向上等に向けた編集・組版機器(システム)の統一化を検討 【エイト】	・既存システムの生産性・効率性、人員体制等を考慮し、組版OSの統一化を目指してエディアン機からマック機へ段階的に移行し、次年度も継続	・組版・集版部門において、ウィンドウズデータ変換システムを導入し、DTP作業の効率化を図った ・組版システムのOS統一によるDTP作業のオペレーションを一元化する検討を進めたが、計画通りに進捗せず来期へ持越し	・既存システムの生産性・効率性、人員体制等を考慮し、組版OSの効率的運用に努めた ・エディアン機からマック機へのオペレーション移行については、ニーズの多様化に応じて適時実施することとした
印刷・製本部門の作業体制の構築 (支援2課) ・印刷から封入、仕分、発送等のワンストップサービス等の受注に対応する作業体制づくりを進める 【エイト】	・ワンストップサービス及びクロスチャネル対応として、受注物件毎に作業編成・工程管理を行い、作業効率の向上と納期に対応	・プレス・ポストプレス工程の管理により、生産能力の有効活用と生産リードタイムの短縮に努めた ・ニーズの特殊性や納期、収益性を考慮し協力外部業者の活用・連携を強化した	・前期に引き続き、印刷から封入、仕分、発送等のワンストップサービスを提供した ・プリプレス・ポストプレス両部門が共同して工程の把握・管理を行い、生産能力の有効活用と生産リードタイムの短縮に努めた
業務効率化の取り組み ・事業部内の業務システムを効率的・効果的に運用し、必要な見直しや将来的な改修等を計画するための全体調査を実施 【エイト】	・部門内業務システム(受注・生産・進行・納品・資材・勘定・コスト・統計等)の大規模改修については、専門技術職の不足により計画通りに進展せず、来期以降のシステムの再構築に向けて継続検討	・部門内の業務管理システムについて、今後の運用方法や次年度以降の新システムの導入に向けた検討を開始した(印刷事業部と共同) ・各部署PCのOS移行は完了せず、来期も継続して実施	・営業部門において受注管理システムの導入検討を行うも、詳細設計、費用算定、導入スケジュール等の構築まで至らなかったことから、第3期経営中期計画において実施することとした ・連動する生産部門の業務管理システムについては、既存システムの検証や新システムの要求事項分析のほか、営業部門との連動性を考慮して各端末機器OS変更に対応する設計を継続的に進めた
クリーニング及び印刷部門の営業体制の見直し ・クリーニング営業と印刷営業の一体化に向けた検討 【法人本部】			・各営業部門の一体化について検討を行ったが、現状での調整が難しいことから継続して検討を進める。

計画内容	平成25年度	平成26年度	平成27年度実施報告
新たな作業科目の検討・開始	多様化する利用者ニーズや障がいの特性等に応じた、新たな作業の開拓確保や、施設内にとらわれず施設外就労についても検討を進める		
新たな生産活動の開始 ・新しくリネン袋たたみ業務、ハンガー回収業務を旧恒心寮で開始する 【クリーナース】	・タオルやユニフォーム、大口私物品のたたみを軽作業の位置づけとして障がいの特性に応じ行っている。ハンガー回収仕分け作業は、ホームクリーニング外注化により、量的な部分で減少したため今後、外交員及び産業部門での回収状況を把握したうえで検討を継続する	・下期よりフルタイム作業や通所が困難な障がい者のニーズに対応できる送迎サービス付きの軽作業事業を立ち上げた。作業は時間的に制約のないタオルたたみや作業場で使用しているハンガー清掃を基本としている	・軽作業事業は現在5名の利用者が在籍しており作業内容はタオルたたみの他ハンガー清掃、患者私物のたたみを基本としながら祝祭日は社会見学を実施するなど利用者のニーズに対応できる体制を構築している
印刷に限定しない作業の確保に向けた検討 ・食品検品、加工品や金具部品の組立等を含む受託作業の導入 ・マッチング事業やコンサルティング等の積極的な活用 ・オリジナル製品の開発に向けた検討を進める 【エイト】	・軽作業班を編成し、脱臭剤の受託製造作業、ゼリーの検品、菓子箱の組立て、金具加工部品の組立て、ペットボトルのラベリングなどの作業を積極的に取り入れ、印刷事業に限定しない生産活動を開始 ・オリジナル製品開発は当面見送り	・前期に引き続き軽作業を実施。新規作業として、乳製品パッケージのラベル貼作業を開始 ・北海道電力のリサイクル脱臭剤の製造作業は、北海道電力側の事情により本年度は生産休止	・軽作業部門において、複数の通年作業を確保した
障がいの重度化、多様化に対応できる軽作業の開拓 ・現行作業の役割分担などの検討 【各事業所】	・各施設において継続検討中	・パン製造部門において、焼きから袋詰、ポップ書きなど作業を細分化し、その利用者に応じた作業を行い、さらに各販売先に職員とともに赴き、販売員として就労した 【ワーク】	・パン部門での就労を希望する障がいの重い利用者に対し、さらに作業工程を細分化し、それぞれの利用者に応じた作業を提供し、個別支援に努めた 【ワーク】
施設外就労の実施 ・4月から準備を始め準備が出来しだい開始予定 ・清掃等の作業場と契約し利用者5~6名程度(1ユニット)で施設外就労を行う【セルブ】	・平成26年4月より施設外就労としてワークセンターの清掃業務を実施予定。契約金額、清掃内容、利用者選定、シフト等、実施に向けた調整を進めた	・4月より施設外就労として札幌ワークセンターの清掃業務を実施した。また9月から老人施設の洗濯業務を、11月から同施設の清掃業務を受託し、現在2ユニットで作業を行っている	・施設外就労1ユニット(3名程度)の新規契約先を探すとともに担当利用者の育成に努めた
3.人材の育成等の取り組み			
福祉事業職員ならびに就労支援事業職員の資質向上	当法人の様々な職種に応じた職員研修等の実施と、内外部において必要な研修の参加を促進し、各事業部はもとより法人全体で職員の資質向上に取り組む		
福祉事業職員の資質向上 ・資質向上のため内外外部での研修参加を促す ・特に工場勤務の福祉職員については内部での研修会の機会を増やす 【クリーナース】 【おおぞら】 【エルフィン】	・資質向上のため内外外部での研修参加を促す ・特に工場勤務の福祉職員については内部での研修会の機会を増やす 【クリーナース】 ・資質向上のため内外外部での研修参加を推進 ・作業棟勤務の福祉事業職員については内部研修会実施 【おおぞら】 ・各種研修・セミナーへの参加(随時) ・世話人会議にて、伝達研修を定期的開催し資質向上に努めた 【エルフィン】	・月2回とした個別支援計画作成会議の他に工場勤務の福祉職員に対して個別に勉強会を実施し福祉に関する知識等、資質の向上に繋げた 【クリーナース】 ・資質向上のため内部・外部の研修参加を積極的に実施 ・福祉事業職員全員を対象とした内部研修会を毎月実施 【おおぞら】 ・知的障がい者の老齢期の課題(5月)、虐待防止(7月)、発達障害の特性理解(9月)、インフルエンザについて(11月)等、世話人への伝達研修等の機会を設け資質の向上に努めた【エルフィン】 ・CSPの援用に関する支援員への伝達研修や虐待防止研修(11月)の機会を設け資質向上に努めた【陽だまり】	・福祉事業職員を対象とした内部勉強会の実施及びキャリアアップを目的とした外部研修会参加を積極的に推進した 【クリーナース】 ・職員の外部研修への積極参加(6月、7月、8月、9月、10月、11月、12月、1月、3月)や研修後の世話人への伝達研修を積極的に行い、資質の向上に努めた【エルフィン】 ・施設外研修(6月、11月)の成果や、利用者ニーズに的確な支援が可能となるよう研修機会(7月、8月)を設け、資質の向上に努めた【陽だまり】

計 画 内 容	平成25年度	平成26年度	平成27年度実施報告
就労支援事業職員の資質向上 ・資質向上のため内部外部での研修参加を促す。 また幹部職員とのヒアリングも随時実施する 【クリーナース】 【おおぞら】	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の資質向上のため各研修会の参加奨励やヒアリングの中で適正な人員配置、作業効率の向上、機械メンテナンスを含めた指導を推進した【クリーナース】 ・資質向上のため内部外部での研修参加を推進【おおぞら】 	<ul style="list-style-type: none"> ・契約、パートを含めた全職員を対象に内部研修会を定期的に開催し、その中で現場の意見を吸い上げる対話型としながら資質の向上に努め、実態に即した施設運営に繋げた【クリーナース】 ・資質向上のため内部外部での研修参加を促しと合わせ職員とのヒアリングも随時実施【おおぞら】 	<ul style="list-style-type: none"> ・全職員を対象とした内部勉強会を定期的開催し、対話型の内容としながら資質の向上に努め職場実態に即した運営に繋げている また、経験の浅い職員に対しては個別にヒアリングを実施した【クリーナース】
福祉事業職員及び就労支援事業職員の資質向上 ・福祉事業職員向け研修の定期実施 ・細分化によるきめ細かい研修(ユニット研修/ディベート方式)の実施 ・サービス管理責任者の育成-相談支援従事者研修等への参加(就労・介護/相談支援) ・スキルアップや専門性の向上、自己啓発等を目的とした研修等への積極的な参加 【エイト】	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉事業職員研修を月1回、利用者支援カンファレンスを毎日、利用者支援連絡会議を週1回開催 ・職業指導員に対する個別研修を随時実施 ・サービス管理責任者の養成のための相談支援従事者研修に1名受講 ・外部研修への参加 ・ディベート研修は実施に至らず、持ち方について継続検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉事業職員研修を月1回、利用者支援カンファレンスを毎日、利用者支援連絡会議を週1回開催し、専門性の習得、援助技術・資質の向上、支援情報等の共有を図った ・サービス管理責任者研修/相談支援従事者研修-複数名の受講エントリーを行うも選定されず1名のみが受講修了(介護分野) ・職業指導員・生活支援員に対する個別研修、ユニット研修を随時実施した ・福祉専門職のキャリアアップを重視した外部研修及び専門性の向上を目的とした外部研修へ参加 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題別勉強会等の内部研修を随時実施し、利用者支援に対する共通認識の確保と援助技術等の向上に努めた ・支援員等に対する個別研修を随時実施した ・階層別・職種別及び個々のキャリア・スキル等に応じた外部職員研修へ積極的に参加
就労支援事業職員の資質向上 ・取次店職員研修 【ワーク】	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉事業職員について年間の外部研修を定め、各支援員に合わせた研修に参加させるとともに、内部研修として利用者を正しく把握する方法としてICFについての勉強会を実施した。職業指導員については、11月に清掃事業者に派遣し、清掃技術等の向上に努めた 	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉事業職員について年間の外部研修を定め、各支援員に合わせた研修に参加させ、職員会議等でその研修についての意見発表を行い、支援に対する意識の醸成と知識の共有を図った ・介護技術について職員間で実地研修を行った。職業指導員については、7月に清掃事業者に派遣し、清掃技術等の向上に努めた 	<ul style="list-style-type: none"> ・各種のマニュアル及び24時間シートを作成し、統一した支援が提供できるように努めた。職業指導員については、5月に清掃事業者に派遣し、清掃技術等の向上に努め、作業指導マニュアル等を作成し、作業指導力の向上を図った
福祉事業職員の資質向上 ・福祉事業職員研修(対象職員) ・職業指導員の資質向上並びに指導力向上 ・清掃技術向上の為、職業指導員の外部研修受講 利用者の作業能力を引き出す指導力向上の為、外部研修受講 【ワーク】	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉事業職員について年間の外部研修を定め、各支援員に合わせた研修に参加させるとともに、内部研修として利用者を正しく把握する方法としてICFについての勉強会を実施した。職業指導員については、11月に清掃事業者に派遣し、清掃技術等の向上に努めた 	<ul style="list-style-type: none"> ・支援員1名が介護福祉士の資格を取得し、介護技術の向上に努めた 	<ul style="list-style-type: none"> ・支援員5名が介護福祉士の資格取得のため、国家試験を受験し、3名が合格した
介護技術の向上 ・障がい者重度化多様化に対応する為、障がい者に合わせた職員相互による内部自主研修及び外部研修受講を積極的に行う 【ワーク】	<ul style="list-style-type: none"> ・外部の研修に積極的に参加するとともに、職員会議やミーティング等で情報交換を行い、利用者の特性について認識を深めた 	<ul style="list-style-type: none"> ・外部研修に積極的に参加し、制度施策、障がい特性、障がいケアマネジメント等に対する認識を深めた ・職員会議やミーティング等で情報交換を行うとともに、外部研修のフィードバックやICF発達障がい、うつ病等の精神障害についての内部研修を行い、理解を深めた 	<ul style="list-style-type: none"> ・法律、制度、障がい等の理解を深めるため、積極的に外部研修に参加した
福祉事業職員及び就労支援事業職員の資質向上 ・障がい特性の習得等研修を行う(随時) 【セルフ】	<ul style="list-style-type: none"> ・法人の福祉事業活動や関係法令の基本的知識習得のため、新任職員研修を実施した(6月) ・法人の様々な職種についての知識・理解を深めるため、中堅職員研修を実施した(8月) ・法人幹部として職位の重要性と利用者・職員とともにいかに事業成果を収め事業経営に対応するかを目的に、幹部職員研修を実施した(8月) 	<ul style="list-style-type: none"> ・新任職員研修の実施(6月) ・中堅職員研修を実施(11月) 	<ul style="list-style-type: none"> ・新任職員研修の実施(6月) ・中堅職員研修の実施(7月)
法人主体による職員研修の充実 ・新任職員研修の実施 ・勤続5～10年の中堅職員の研修を実施 ・幹部職員の研修を実施 【総務課】	<ul style="list-style-type: none"> ・法人の福祉事業活動や関係法令の基本的知識習得のため、新任職員研修を実施した(6月) ・法人の様々な職種についての知識・理解を深めるため、中堅職員研修を実施した(8月) ・法人幹部として職位の重要性と利用者・職員とともにいかに事業成果を収め事業経営に対応するかを目的に、幹部職員研修を実施した(8月) 	<ul style="list-style-type: none"> ・新任職員研修の実施(6月) ・中堅職員研修を実施(11月) 	<ul style="list-style-type: none"> ・新任職員研修の実施(6月) ・中堅職員研修の実施(7月)

計画内容	平成25年度	平成26年度	平成27年度実施報告
職務に関連した資格取得を推奨	職員等のスキルアップを目的として、資格手当等を活用させ其々の職務に応じた資格取得を推奨する		
福祉関係の資格取得を推奨 ・特に今後当法人でも必要とされる、福祉関係の介護ヘルパーまたは福祉主事取得は推奨する 【クリーナーズ】 【おおぞら】 【エルフィン】	・総合支援担当の生活支援員が社会福祉士資格取得中 【クリーナーズ】 ・安全衛生管理者ならびにクリーニング師、病院寝具管理士、障害者職業生活相談員資格取得、また社会福祉主事取得に向け1名勉強中 【おおぞら】	・福祉主事取得のため職員2名が現在受講中 【クリーナーズ】 ・特に福祉関係(社会福祉主事等)や生産業務に役立つクリーニング師、病院寝具管理士を中心とした資格取得推奨を行った 【おおぞら】	・社会福祉主事取得のため受講中であった2名が資格を取得。また生活支援員1名が現在社会福祉士資格取得のため学習中 【クリーナーズ】
資格取得の推奨 ・サービス管理責任者研修 ・社会福祉主事任用資格 【エイト】	・相談支援従事者研修 1名受講 ・社会福祉主事任用資格 1名取得 ・社会福祉士 1名取得 ・精神保健福祉士 1名取得	・サービス管理責任者資格 1名取得 ・社会福祉主事任用資格 1名取得 ・社会福祉士 1名受講中 (平成26～27年度)	・サービス管理責任者研修(介護分野) 1名修了 ・相談支援従事者研修(就労分野) 1名受講 ・社会福祉主事任用資格 2名取得 ・介護福祉士 2名取得
資格取得の推奨 ・社会福祉主事任用資格(1名) ・介護関係資格取得奨励 【ワーク】	・支援員1名が社会福祉士、支援員2名が介護福祉士の資格を取得し、職務に活かしつつ他の支援員の資格取得への啓発を図った。また、11月より支援員1名が社会福祉主事任用資格取得のため受講中	・支援員1名が福祉実践の基礎となる社会福祉主事任用資格を取得し、職務に活かしつつ他の支援員の資格取得への啓発を図り11月より支援員1名が社会福祉主事任用資格取得のため受講中 ・2名が精神保健福祉士、介護福祉士を取得した	・支援員1名が福祉実践の基礎となる社会福祉主事任用資格を取得し、また、支援員5名が介護福祉士資格取得のため、国家試験を受験し3名合格した
計画的な人員配置と育成	定年退職や継続雇用任期満了職員等の状況を踏まえ、若手職員の採用と育成ならびに業務量に応じた適正な人員配置を計画的に実施する		
計画的な採用と職員の育成 ・各課で若手の次世代幹部候補を計画的に採用し育成する、また、職場風土の改善を図る意味での現職員の育成も図る 【クリーナーズ】 【おおぞら】 ・人材育成、多能技術習得、業務の相互補完及び組織の活性化等を図るための職域連携と人事異動の実施(継続・適時) ・後継者育成のための計画的採用 【エイト】	・若手職員の採用については、ホームクリーニング縮小化の進捗状況により部門別の収支バランスを踏まえた生産性を考慮し必要人員の構成により採用を見送った。また、現職員について個々のミーティング等を増やし意見を受け止めながら法人の方向性について説明を行った 【クリーナーズ】 ・就労支援事業活動(生産活動)の合理化・見直しを行う中で、オペレーションの変更や人事異動による人員配置の見直し ・職种間連携による業務補完に努め多能OPの育成に努めた ・4月2名10月1名の施設間人事異動を実施 ・専門職の補強、後継者育成を目的とした求人を行うも計画通りに人材確保が進まず、次年度持越 【エイト】	・若手職員の採用については、部門別の収支バランスを踏まえ、採用を見送った。しかし、今後の新工場生産体制を安定確立するため世代交代と人材育成を考慮し継続して鑑する【クリーナーズ】 ・就労支援事業種(生産種)の合理化・見直しを行う中で、オペレーションや人員配置を調整変更 ・職种間連携による業務補完に努め、多能OPの育成に努めた ・新規雇用によりプリプレス部門に4月1名、5月1名の人員補強を実施 ・施設間人事異動及び新規雇用により情報処理部門に2名の人員補強を実施 ・専門職の補強、後継者育成を目的とした生活支援員・職業指導員等の求人を行うも計画通りに人材確保が進まず来期へ持越 【エイト】	・新工場生産体制を安定的に確立すると同時に世代交代を考慮し若手職員をホテル部門で1名採用した。今後は、部門別の収支及び生産性、営業展開を見極め継続検討していく【クリーナーズ】 ・想定外の退職者もあり、次世代を担う職員採用を計画したが、求人に対する反応がほとんど無く採用には至らなかった 【おおぞら】 ・各項目～前期に引き続き実施 ・専門職の補強、後継者育成を目的とした生活支援員・職業指導員等の求人を行うも計画通りに人材確保が進まず継続～支援全課において計2名の就労支援事業職員の補強に留まった ・営業業務部門においては、担当業務の入替えを行い、業務補完体制づくりを進めた 【エイト】
福祉職員の増員 ・福祉職員1名採用予定 福祉の専門職として生活支援員、就労移行支援員を各1名配置し、人材育成と後継者育成を行う 【セルフ】	・福祉職員2名増員 (生活支援員1名、職業指導員1名) ・利用者支援の基礎を学び、生活支援員・職業指導員としての質の向上に努めた	・施設外就労の作業指導員として2名を採用 ・来年度の事業強化と後継者育成を図るため、新年度新規福祉職員として2名採用(作業指導員セルフ1名・やまはな1名)	・事業強化と後継者育成を図るため、新規福祉職員として2名採用(セルフ2名)
職員の確保と後継者の人材育成 ・2名採用予定 職業指導員1名、施設外就労職員1名 【セルフ】			

計 画 内 容	平成25年度	平成26年度	平成27年度実施報告
後継者育成 ・次世代を担う幹部候補育成の為、新卒1名採用 【ワーク】	・新卒者1名採用に向けて大学、専門学校等を訪問し求人活動をしたが応募者が無いため、中途採用1名を雇用するとともに利用者の夜間における支援に応えるため、夜勤専門員3名を雇用し夜勤2名体制を図り支援の充実に努めた	・主任職に対し、仕事内容の見直し、移譲、意見交換等を実施し、次世代を担う職員としての意識の醸成に努めた	・20代の支援員2名を採用し、次世代を担う職員として育成を図った
職員等の処遇改善に係る検討見直し 指定休一斉消化の実施 ・工場と事務営業関係双方での具体的協議を図る ・特に各工場の作業効率 設備 滞貨場所の有無など細部に渡り検討する(部内検討協議 試験的実施) 【クリーナース】【おおぞら】 給与規程及び人事考課の見直し ・現在の給与規程及び人事考課制度の現状認識を行い、問題点等を洗い出し給与規程及び人事考課制度の見直しを図り、状況に応じて平成25年度以降に改定する 【総務課】	職員等の「動機づけ」や「やる気」を向上させるための処遇改善や規定等の検討・見直しを進める		
	・すでに年度計画に基づき一斉休日数回実施済み ・新年度指定休日数大幅増に向け生産体制整備準備中 【おおぞら】	・年度計画に基づき、年間26日の一斉休日実施(新作業棟)	【おおぞら】
	・関係機関主催の「人事管理講座」等に関係者が出席し、評価制度・給与制度の構築に向けた具体的な基礎資料を参考に、給与規程及び人事考課制度のたたき台となる仕組みの検討を進めた	・人事考課に基づく実力昇給を可能にする仕組みの検討・協議を行い、基本となる仕組みの構築を行った。今後、中期的な事業状況や人員配置等を考慮した人件費のシミュレーションを行い導入に向けた検討を進める	・人事考課に基づく新給与制度の仕組みを構築し、中期的な事業状況や人員配置等を意識した人件費シミュレーションを行い、導入準備を進めた (平成28年度より実施)
4. 新会計基準への取組み			
社会福祉法人新会計基準の制定に伴う業務体制の整備 社会福祉法人新会計基準に伴い会計業務体制の整備 ・新会計基準移行に向けた準備作業 ・各事業所の会計事務分担制の確立と指導 ・経理規程等の改定(11月より前) ・平成26年度予算編成は新会計基準に基づき策定(12月) 【経理課】	社会福祉法人の新会計基準制定に伴い、新会計基準に基づく会計実務等に係る知識・技術の修得と、各部門における業務体制の整備を進め、平成26年4月から新会計事務を開始する		
	・4月より現行会計システムと新会計システムの併行稼働を行い、各事業所の会計事務分担制に向けて新会計基準の説明会等を行った 【経理課】 ・施設内で会計担当職員を決め、知識・技術習得のため内外研修に参加し新会計基準の中で必要な財務諸表を現在のものと対比しながら対応した 【クリーナース】 ・移行に伴う研修会等に担当者を参加させた 【おおぞら】 ・4月から施設内に会計担当者を1名配置し、新会計基準への移行に向けた準備を実施 ・新会計基準に関する外部研修会へ参加、内部勉強会等を通して、制度内容の把握に努めた ・新会計基準に基づく平成26年度予算の策定 ・新会計基準に関する外部研修会への参加、内部勉強会等を通して、制度内容の把握に努めた 【エイト】 ・法人経理課主催による施設毎の新会計基準勉強会及び外部研修に参加するなどして知識等の習得に努め、新会計基準移行に備えた 【ワーク】 ・新会計基準に関する研修会に積極的に参加し、新会計基準の理解を深めた 【セルフ】	・新会計基準に移行(4月)	

計 画 内 容	平成25年度	平成26年度	平成27年度実施報告
<ul style="list-style-type: none"> ・新基準に対応した部内業務準備(売上・仕入・費用等の区分・仕分など) ・新会計に基づく平成26年度当初予算の編成【各事業所】 		<ul style="list-style-type: none"> ・4月から施設内に会計担当者を1名配置【エイト】 ・新会計基準に関する研修会に積極的に参加し、新会計基準の理解を深めた【ワーク】 	
5.法人運営の取組み			
売店事業の移管運営 <ul style="list-style-type: none"> ・リハビリー労働組合より売店事業の移管を受け、福利厚生を目的としてクリーナース恒心寮にも出店し施設利用者の就労訓練等に活用できるよう運営を行う 	<ul style="list-style-type: none"> ・9月20日に売店事業を開始した。現行は、パート職員を配置しているが、利用者の就労訓練等の作業場所として運営の可能性を継続検討する【クリーナース】 	<ul style="list-style-type: none"> ・エイト施設棟の売店運営について、エイト部門へ移行。利用者の利便と福利厚生に供するよう適正な事業運営に努めた【エイト】 	
全事業所の情報共有化に向けたネットワークインフラの整備 <ul style="list-style-type: none"> ・全事業所との情報共有化等に向けた、共有する情報の検討・整理とネットワークインフラの検討・整備【総務課】 	<ul style="list-style-type: none"> ・各事業所を繋ぐネットワークインフラについては、導入費用やランニングコストを考慮し、使いやすい通信回線の検討を進め「ひかり回線」を導入した 	<ul style="list-style-type: none"> ・全社LANの構築・実施に向けて共有する情報ならびに導入費用等の調査・検討を進め、平成27年度実施に向けた準備を行った【総務課】 	<ul style="list-style-type: none"> ・札幌施設(札幌ワークセンター、セルフさっぽろ)とのネットワーク接続設備を設置し、財務会計ソフトを稼働させ、仕訳伝票の入力及び財務・予算関係の情報共有を図った【総務課】
リハビリー附属診療所のあり方について 【法人本部】	<ul style="list-style-type: none"> ・平成24年3月31日をもって診療科目の整形外科を廃止 	<ul style="list-style-type: none"> ・内科については受診患者の状況等を把握し、今後についての検討を進めた 	【法人本部】
50周年記念事業の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・50周年記念誌の発行 ・50周年記念式典、記念講演、祝賀会の開催 ・50周年記念旅行の検討実施【法人本部】 	<ul style="list-style-type: none"> ・50周年記念誌を発行した ・50周年記念式典、記念講演、祝賀会を11月16日に開催 場 所：北広島クラッセホテル 記念式典：功労者表彰、協力企業等表彰 記念講演：「命のメッセージ」 小菅正夫(前旭山動物園園長) 記念祝賀会：祝辞、祝杯、アトラクション等 ・9月26日より50周年記念旅行を6班に分けて実施 旅行場所：東京ディズニーリゾート、大江戸博物館他 453名参加 		

3. 理事会・評議員会

開催日	審議内容等
4月28日	<p>【定例理事会】</p> <p>会場：ホテルノースシティ（出席理事数 8名）</p> <p>報告事項 事業実績及び資金繰りについて(2月～3月) 運営状況について(2月～4月) 平成26年度第4四半期監事監査報告 理事・評議員退任に伴う選考委員会からの選考結果報告 施設設備整備実施結果について</p> <p>協議事項 平成26年度事業報告(案)について 平成26年度決算(案)について グループホーム新規建設に伴う設計業務委託について 建設委員会の権限について</p> <p>その他 北海道による障がい福祉関連個人情報保存ハードディスク紛失について</p>
5月28日	<p>【第1回評議員会】</p> <p>会場：ホテルさっぽろ芸文館（出席評議員数 15名）</p> <p>協議事項 平成26年度事業報告(案)について 平成26年度決算(案)について 平成26年度監事監査報告 理事の選任及び委嘱について</p> <p>その他 理事・監事・評議員の任期満了に伴う改選手続について</p>
	<p>【定例理事会】</p> <p>会場：ホテルさっぽろ芸文館（出席理事数 7名）</p> <p>報告事項 平成27年4月度事業実績及び資金繰りについて 運営状況について(4月～5月) グループホーム新規建設に伴う設計業務委託入札結果について</p> <p>協議事項 平成26年度事業報告(案)の承認について 平成26年度決算(案)の承認について 平成26年度監事監査報告について 平成26年度資産変更登記について 評議員の選任及び委嘱について 平成27年度労働組合の要求に対する回答について 夏季賞与について 施設利用者の精勤手当等について 建設委員会の権限について</p> <p>その他 理事・監事・評議員の任期満了に伴う改選手続について</p>

開催日	審 議 内 容 等
7月31日	<p>【定例理事会】</p> <p>会場：ホテルノースシティ（出席理事数 9名）</p> <p>報告事項 事業実績及び資金繰りについて(5月～6月) 運営状況について(5月～7月) 建設委員会からの報告 リハビリー・おおぞらにおける労働争議について</p> <p>協議事項 施設設備整備について</p>
10月 5日	<p>【臨時理事会】</p> <p>会場：ホテルノースシティ（出席理事数 9名）</p> <p>報告事項 理事・監事・評議員の任期満了に伴う改選状況報告</p> <p>協議事項 理事会・評議員会の共通申し合わせ事項の一部改正について 理事・監事・評議員選考委員の選任について 施設設備整備について</p> <p>その他 社会福祉法の改正について</p>
11月26日	<p>【第2回評議員会】</p> <p>会場：ホテルさっぽろ芸文館（出席評議員数 16名）</p> <p>報告事項 平成27年度上半期事業状況について 平成27年度上半期監事監査報告</p> <p>協議事項 平成27年度補正予算(案)について 定款変更について 任期満了に伴う理事・監事の選任について 新理事長の業務体制について</p>

開催日	審 議 内 容 等
11月26日	<p>【定例理事会】</p> <p>会場：ホテルさっぽろ芸文館（出席理事数 9名）</p> <p>報告事項 リハビリー・おおぞらにおける労働争議について 事業実績及び資金繰りについて(8月～10月) 運営状況について(8月～11月) 平成27年度上半期事業状況について 平成27年度上半期監事監査報告 札幌市の指導監査結果について(札幌ワークセンター) 施設設備整備実施結果について</p> <p>協議事項 平成27年度補正予算(案)について 定款変更について 任期満了に伴う評議員の選任について 新理事長の業務体制について 個人情報保護規程の一部改正について 年末賞与について 施設利用者の精勤手当について</p>
12月25日	<p>【定例理事会】</p> <p>会場：センチュリーロイヤルホテル（出席理事数 6名）</p> <p>協議事項 理事長の選出について 常務理事及び理事長職務代理者の指名について 資金運用審査委員の選任について 定款細則の改定について 役員・参与等報酬支給規程の改定について 就業規則及び給与規程の一部改定について 退任理事・監事の退任慰労金について</p> <p>報告事項 事業実績及び資金繰りについて(11月) 運営状況について(11月～12月)</p>

開催日	審 議 内 容 等
2月25日	<p>【第3回評議員会】</p> <p>会場：ホテルノースシティ（出席評議員数 15名）</p> <p>協議事項 平成27年度決算見込みについて 平成28年度事業計画(案)及び平成28年度予算(案)について リハビリー・クリーナーズの老朽改築について 定款変更について</p>
	<p>【定例理事会】</p> <p>会場：ホテルノースシティ（出席理事数 7名）</p> <p>報告事項 事業実績及び資金繰りについて(12月～1月) 運営状況について(12月～2月)</p> <p>協議事項 平成27年度決算見込みについて 平成28年度事業計画(案)及び平成28年度予算(案)について リハビリー・クリーナーズの老朽改築について 定款変更について 就業規則の改定及び給与制度改正に伴う給与規程の改定について 当座貸(借)越契約並びに所内預金の保全について</p>

4. 職員研修等

開催日	研修等の名称	開催地	出席者
4月23日	沖縄綿久寝具(株)中城工場 視察 日本病院寝具協会	沖縄県	道下(健)、伊藤(学)、 渡辺(芳)
5月 7日	就労アセスメントに係る説明会 北広島市保健福祉部	北広島市	小田、道下(健)、渡辺(芳)、 佐藤(貴)、伊藤(大)
14日 ~15日	福祉専門職のためのキャリアアップ研修(初任者コース) 北海道社会福祉協議会	札幌市	橋本(実)、伊藤(大)
16日	実践報告会(今日の札幌の発達障害児・者の支援の報告) 札幌市自閉症・発達障がい支援センター おがる	"	佐々木(繁)
19日	就労アセスメントに係る説明会 北広島市保健福祉部	北広島市	菅原(宗)、奥田(雅)、吉ヶ谷 萩原、津田(誠)、伊藤(大)
26日	施設職員スキルアップ講座 北海道社会福祉協議会 社会福祉施設部会	札幌市	梶川、秋元、秋山、廣島、 佐藤(麻)、佐々木(寛)、道下(真)
27日	社会保険委員会 事務講習会 新さっぽろ社会保険委員会	"	竹本
6月 4日	Cloud Days 2015 公式セミナー 日経BP社	"	柏田
4日 ~5日	児童福祉施設職員研修 北海道社会福祉協議会	"	服部
7日 ~11日	社会福祉主事資格認定通信課程スクーリング 全国社会福祉協議会 中央福祉学院	神奈川県	道下(真)
9日 ~10日	新人職員マナー研修 北海道社会福祉協議会	札幌市	秋山
10日 ~11日	社会就労センター施設長・職員研修会 北海道社会就労センター協議会	"	16名
"	新任介護職員研修 北海道社会福祉協議会	"	及川(環)
11日 ~12日	就労移行支援事業所職員向け研修 札幌圏就労移行支援事業所連絡協議会	"	津田、田村(ゆ)
11日 ・12日	北海道情報・印刷産業展公式セミナー 北海道情報・印刷産業展実行委員会	"	11日：小井川 12日：酒井(雅)
"	北海道情報・印刷産業展 北海道情報・印刷産業展実行委員会	"	26名
12日	新任職員研修 北海道リハビリ	施設内	廣田、工藤(彩)、得地、太田(通)、 高橋(望)、松岡(裕)、野宮(将)、田川、 中村(天)、五十嵐(さ)、鈴木(達)

6月10日~11日
社会就労センター施設長・職員研修会 市川、伊藤(義)、大黒、奥田(雅)、小田、梶川、菅原(宗)、杉田、鳥居、中井、中田(光)、平沼、
福田(一)、藤原(雅)、道下(健)、吉ヶ谷、

6月11日~12日
北海道情報・印刷産業展 井手上、池野、岩本(貴)、上田、奥田(雅)、上、川上、河野、作佐、佐藤(裕)、真田、菅原(友)、杉田、鈴木(博)、
田畑(義)、高松、谷口(博)、布村、浜崎、福田(一)、古屋(安)、松崎、前田(秀)、松本(恭)、山邊、吉崎(正)、
(五十音順)

開催日	研修等の名称	開催地	出席者
6月16日	役員・委員研修会 北海道民間社会福祉事業職員共済会	札幌市	福田(一)
17日 ~18日	介護職員専門研修 北海道社会福祉協議会	"	金沢、在原
"	相談支援従事者研修(基礎研修) 北海道保健福祉部福祉局 障がい者保健福祉課 地域づくり推進グループ	"	大山(毅)
18日	障がい者虐待防止研修会 北海道リハビリ(リハビリ・エイト)	施設内	21名
22日	労働安全衛生法に基づくストレスチェック制度対策セミナー あいおいニッセイ同和損害保険 北海道AD倶楽部	札幌市	萩原、新出
25日	標準報酬算定研修会 ミロク情報サービス 札幌支社	"	佐藤(悠)
29日	社会福祉法人経営者セミナー 北海道社会福祉協議会、北海道社会福祉法人経営者協議会	"	五十嵐(勤)、平沼
29日 ~7月3日	社会福祉主事資格認定通信課程スクーリング 全国社会福祉協議会 中央福祉学院	神奈川県	高松
7月1日 ~3日	相談支援従事者研修(基礎研修) 北海道保健福祉部福祉局 障がい者保健福祉課 地域づくり推進グループ	札幌市	大山(毅)
3日	札幌市障がい者虐待防止相談 出前講座 札幌市社会福祉協議会	施設内	20名
4日 ~8日	フォークリフト運転技能講習 コベルコ教習所	札幌市	鈴木(達)
14日 ~18日	社会福祉主事資格認定通信課程スクーリング 全国社会福祉協議会 中央福祉学院	神奈川県	片岡
16日	中堅職員研修 北海道リハビリ	施設内	秋元、小野(智)、田村(ゆ)、畑中、 作佐部、花岡、吉崎(正)、高山、 古崎、松原、森(邦)、竹本
21日	札幌市身障連協 職員研修会 札幌市身体障がい者福祉事業連携協議会	札幌市	市川、鳥居、花岡、清水、中井、 五十嵐(さ)、藤原(雅)、田川
22日 ~24日	全国社会就労センター総合研究大会(長崎大会) 全国社会福祉協議会・全国社会就労センター協議会	長崎県	道下(健)、服部
23日 ~24日	メンタルヘルス研修 北海道社会福祉協議会	札幌市	加々見、知覧、岡本(佳)
23日 ~27日	社会福祉主事資格認定通信課程スクーリング 全国社会福祉協議会 中央福祉学院	神奈川県	津田
28日 ~29日	北海道サービス管理責任者研修(第1分野介護) 北海道地域ケアマネジメントネットワーク	札幌市	杉田

6月18日 秋山、生島、池野、岩本(貴)、上田、太田(恭)、太田(通)、奥田(雅)、柏田、河野、河端(千)、作佐部、
障がい者虐待防止研修会 佐藤(裕)、鈴木(ふ)、鈴木(博)、仲野、東出(昇)、古屋、松本(恭)、森田(修)、吉本

7月3日 在原、飯沢、池内、伊藤(義)、梅原、岡本(佳)、亀貝、工藤(竜)、小峯、佐々木(繁)、
札幌市障がい者虐待防止相談 出前講座 高山、田川、中川(里)、藤原(雅)、野宮(将)、茂治、森(洋)、山岡、横山(美)、渡辺(卓)
(五十音順)

開催日	研修等の名称	開催地	出席者
7月30日	安全運転管理者等講習 北海道公安委員会	札幌市	藤原(雅)
8月 5日	社会福祉法人・社会福祉施設ブロック研修会 北海道社会福祉協議会、北海道社会福祉法人経営者協議会	"	菅原(宗)、大黒、梶川、道下(健)、市川、渡辺(芳)、中田(光)、佐藤(真)、藤原(雅)、伊藤(義)、鳥居、小田、吉ヶ谷
6日 ~7日	新任介護職員研修 北海道社会福祉協議会	"	佐藤(麻)、生島、田川
7日	施設職員スキルアップ講座(中堅職員編) 北海道社会福祉協議会 社会福祉施設部会	"	稲垣、窪田(剛)、松本(恭)、花岡
7日 ~11日	社会福祉主事資格認定通信課程スクーリング 全国社会福祉協議会 中央福祉学院	神奈川県	新出
13日	計画相談支援HowTo研修 さっぽろ地域づくりネットワーク ワン・オール	札幌市	大山(毅)
19日	聖芳園センター研修 北広島市高齢者総合ケアセンター 聖芳園	北広島市	服部
20日 ~21日	福祉専門職のためのキャリアアップ研修(中堅職員コース) 北海道社会福祉協議会	札幌市	袴田、藤田(淳)
25日	マイナンバー法施行間近！直前対策セミナー 東芝テック 北海道支店	"	竹本
29日	虐待防止研修会 北海道社会福祉士会	"	小野(智)、加藤(裕)、服部
9月 1日	社会福祉法人制度改革セミナー 新日本有限責任監査法人	"	平沼、遠藤(久)、福田(一)、田中監事
1日 ~2日	社会福祉法人人材マネジメント講座 全国社会福祉法人経営者協議会	東京都	吉ヶ谷
2日	安全運転管理者等講習 北海道公安委員会	札幌市	今井、水口、住谷
"	千歳保健所管内給食施設調理従事者研修会 北海道石狩振興局保健環境部保健福祉室	恵庭市	服部、小田嶋(千)
"	食品衛生講習会 札幌市保健福祉局	札幌市	小峯
3日 ~4日	介護職員専門研修 北海道社会福祉協議会	"	及川(勝)、横山(美)、工藤(竜)
4日	北海道強度行動障害支援者養成研修(フォローアップ研修) はるにれの里	"	菅原(宗)、稲垣
5日	救急の日記念講演会 北広島医師会	北広島	近江、陽だまり入居者1名
"	クリーニング師試験受験のための講習会 北海道クリーニング生活衛生同業組合	札幌市	川村(昭)
7日 ~8日	身体障害者福祉施設職員研修会 北海道身体障害者福祉施設協議会	"	道下(健)、福田(一)、高松、渡辺(卓)、市川
10日	計画相談支援HowTo研修 さっぽろ地域づくりネットワーク ワン・オール	"	藤原(雅)、伊藤(義)

開催日	研修等の名称	開催地	出席者
9月12日	ハウスキーパー研修会 北海道リハビリ(クリーニング事業部)	施設内	13名
14日 ~15日	IGAS2015(国際総合印刷機材展)・葵製本・東京コロニー視察研修 印刷機材団体協議会	東京都	福田(一)、奥田(雅)、松崎、 杉田
19日	ハウスキーパー研修会 北海道リハビリ(クリーニング事業部)	施設内	13名
24日 ~25日	施設長及び職員研修会 北海道身体障害者授産施設連絡協議会	新得町	遠藤(久)、福田(一)、 佐藤(貴)、藤原(雅)
29日 ~30日	利用者の工賃向上と就労支援を考える研修会 北海道社会就労センター協議会	札幌市	道下(健)、松本(榮)、梅原、 中井、花岡
"	福祉専門職のためのキャリアアップ研修(チームリーダーコース) 北海道社会福祉協議会	"	大山(毅)、服部
30日 ~10月1日	看護師専門研修 北海道社会福祉協議会	"	松岡(裕)
10月3日	高次脳機能障害リハビリテーション講習会 北海道高次脳機能障害リハビリテーション講習会実行委員会	"	服部
6日	人事管理研修 北海道社会福祉法人経営者協議会	"	福田(一)、佐藤(貴)、 吉ヶ谷
6日 ~7日	第1種消防設備点検資格者再講習 北海道消防設備協会	"	寺田
8日	障害者総合支援法に係る主治医研修 北海道	"	吉ヶ谷
9日	公正採用選考人権啓発推進員研修会 札幌公共職業安定所	"	吉ヶ谷
14日	改正社会福祉法とリスクマネジメントセミナー さくら総合会計	"	福田(一)
"	SOXBOXNX・MJSマイナンバー管理システム研修会 ミロク情報サービス 札幌支社	"	吉ヶ谷、竹本
15日	マイナンバー対策セミナー コニカミノルタビジネスソリューションズ	"	菅原(宗)、旭
"	リネンサプライ業技能実習講習会(初級) 日本テキスタイルサプライ協議会	東京都	知覧
21日	地域をもっとよくするためのセミナー 札幌市社会福祉協議会	札幌市	藤原(雅)、市川、鳥居、
22日 ~23日	福祉専門職のためのキャリアアップ研修(チームリーダーコース) 北海道社会福祉協議会	"	竹内(孝)、山崎(正)、森(洋)

9月12日
ハウスキーパー研修会 粟田、猪俣、大橋、岡田(牧)、小田嶋(由)、佐藤(美)、坪江、中野、播磨、早坂、舟木、古川(砂)、堀崎

9月19日
ハウスキーパー研修会 伊藤(和)、奥田(正)、菊地(里)、佐々木(ゆ)、佐藤(美)、佐藤(久)、高井、高橋(泰)、竹内(芳)、田畑(康)、
本間(雪)、村本、森松

(五十音順)

開催日	研修等の名称	開催地	出席者
10月22日 ～23日	病院寝具管理士認定講習会 日本病院寝具協会	東京都	伊藤(学)、小野(智)、加々見、 松原
26日	災害時避難訓練「振り返り研修」 札幌市身体障がい者福祉事業連携協議会	札幌市	藤原(雅)、市川、鳥居、
30日	食品衛生講習会 札幌市保健所	〃	小峯
11月 4日	介護・福祉事業のマイナンバー制度リスク対策セミナー あいおいニッセイ同和損保 北海道AD倶楽部ケアフレンズの会	〃	福田(一)、佐藤(貴)、北川
5日	洗浄の基礎と最適な洗浄方法について 共栄社化学 業務用化学品業種	施設内	菅原(宗)、大黒、川村(昭)、佐伯、 竹内(孝)、藤原(基)、山崎(正)
10日	社会福祉施設管理・運営セミナー 北海道社会福祉協議会 社会福祉施設部会	札幌市	遠藤(久)、菅原(宗)
〃	社会福祉施設職員等退職手当共済制度実務研修会 福祉医療機構	〃	吉ヶ谷、竹本
10日 ～11日	施設相談員専門研修B(障がい) 北海道社会福祉協議会	〃	知覧、中田(光)、吉永
12日	障害者総合支援法並びに児童福祉法に基づく集団指導 北海道石狩振興局保健環境部社会福祉課	〃	小田、道下(健)、福田(一)、大黒、奥田(雅)、 佐藤(貴)、梶川、竹内(孝)、服部、遠藤(美)、
12日 ～13日	メンタルヘルス研修 北海道社会福祉協議会	〃	飯澤
18日	弁護士が語るマイナンバー制度 ミロク情報サービス 札幌支社	〃	吉ヶ谷
18日 ・19日	交通安全講習会 北海道リハビリ(法人本部)	施設内	18日：30名 19日：25名
19日 ～20日	甲種防火管理新規講習 日本防火・防災協会	江別市	藤井
〃	栄養士専門研修(児童・成人) 北海道社会福祉協議会	札幌市	小峯
20日	社会福祉法人・社会福祉施設経理取扱実務研修会 北海道社会福祉協議会	〃	遠藤(久)、小田、福田(一)、 道下(健)、吉ヶ谷、渡辺(芳)
〃	年末調整等説明会 札幌南税務署	北広島市	佐藤(悠)
24日	下請取引適正化推進講習会 公正取引委員会	札幌市	伊藤(佳)

11月18日
交通安全講習会
阿部(仁)、阿部(み)、荒木、生島、石橋(賢)、石郷岡、伊藤(友)、伊藤(佳)、稲垣、大山(道)、奥田(雅)、鎌田、
後藤(静)、酒井、塩俣、菅原(敦)、菅原(宗)、鈴木(靖)、住谷、橋本(和)、平泉、藤田(淳)、前田(秀)、松崎、
松原、村川、安岡、山本(正)、吉永、渡辺(裕)

11月19日
交通安全講習会
秋元、池野、内潟、近江、大山(毅)、小田嶋、加々見、梶川、片倉、上、北川(純)、北村(こ)、齊藤(岳)、真田、
高橋(絵)、田川、谷永、土谷(稔)、友村、中田(光)、服部、浜崎、廣田、山田(真)、吉本

(五十音順)

開催日	研修等の名称	開催地	出席者
11月25日 ～26日	看護師専門研修 北海道社会福祉協議会	札幌市	黒森
26日 ～27日	北海道サービス管理責任者研修(第1分野介護) 北海道地域ケアマネジメントネットワーク	"	大山(毅)
"	職場研修担当者(OJT担当者)養成研修 北海道社会福祉協議会	"	新出、中川(里)
28日 ～29日	全国児童相談研究セミナー北海道大会 全国児童相談研究会	"	18日：古崎、阿部(み)、 19日：古崎、近江
12月1日	北広島市就労情報交換会 障がい者就労支援センター めーでる	北広島市	佐藤(貴)、萩原、伊藤(智)、 伊藤(大)、中田(光)
3日	障害者総合支援法及び児童福祉法に基づく集団指導 札幌市保健福祉局障がい保健福祉部障がい福祉課	札幌市	市川、鳥居、 藤原(雅)、伊藤(義)
3日 ～4日	介護職員専門研修 北海道社会福祉協議会	"	大山(道)
7日	法人役員・施設長専門研修(社会福祉施設) 北海道社会福祉協議会	"	遠藤(久)、小田、福田(一)、 道下(健)、渡辺(芳)
8日	防災教室 北海道リハビリ(エルフィンホーム)	施設内	荒木、服部、古崎、田中(百)、 菅原(和)、石井(良)、利用者15名
9日	普通救命講習会 北海道リハビリ(法人本部)	"	25名
"	普通救命講習会 札幌市防災協会	札幌市	五十嵐、森(智)
10日 ～11日	新任介護職員研修 北海道社会福祉協議会	"	池野、野宮(将)
11日	下請取引適正化推進シンポジウム2015 経済産業省中小企業庁	"	菅原(靖)
14日	障がい者就労支援研修 石狩障がい者就業・生活支援センター のいける	江別市	伊藤(智)、伊藤(大)
14日 ～15日	北海道障がい者虐待防止・権利擁護研修 北海道保健福祉部福祉局障がい者保健福祉課	札幌市	稲垣
15日	女性活躍推進法説明会 北海道労働局 雇用均等室	"	吉ヶ谷
"	事業所向け研修会 北広島市保健福祉部福祉課	北広島市	渡辺(芳)、梶川、萩原、 服部、布村(亜)、大山(道)
21日 ～22日	北海道障がい者虐待防止・権利擁護研修 北海道	札幌市	服部
22日	集团的個別指導(集団部分) 北海道厚生局	"	小川医師、吉ヶ谷

12月9日
普通救命講習会

秋元、五十嵐、遠藤(久)、太田(恭)、太田(通)、大山(道)、鎌田、川上、後藤(静)、作佐部、真田、鈴木(達)、
新谷、高橋(望)、高橋(絵)、知覧、寺下、寺田、中田(光)、布村(亜)、橋本(美)、平泉、古屋、森(智)、山邊

(五十音順)

開催日	研修等の名称	開催地	出席者
12月22日	高次脳機能障がいセミナー 北海道石狩振興局保健環境部千歳地域保健室	千歳市	大山(道)
1月12日	エンパワメントと虐待防止 北海道立特別支援教育センター	札幌市	服部
20日	クリーニング薬剤の性質と用途 共栄社化学	施設内	菅原(宗)、大黒、石川(晃)、梶川、川村(昭)、窪田(剛)、佐伯、竹内(孝)、藤原(基)、山崎(正)
21日	看板商品・人気商品を作り出す研修会 北海道社会就労センター協議会	札幌市	藤原(雅)
25日	社会福祉法人会計基準等に係る研修会 札幌中央会計	"	旭
26日	身体障害者福祉施設研究セミナー 北海道身体障害者福祉施設協議会	"	福田(一)、道下(健)、菅原(宗)、藤原(雅)、市川、奥田(雅)、佐藤(貴)、鳥居、梶川、杉田、窪田(悦)、中村(友)、道下(真)
28日 ~29日	安全管理者選任時研修 中央労働災害防止協会	"	鈴木(博)
30日	地域生活定着支援事業推進会議 in さっぽろ 北海道社会福祉協議会	"	道下(健)、萩原、遠藤(美)
2月16日	経済センサス調査実施に関する説明会 経済センサス 活動調査実施事務局	"	吉ヶ谷
17日 ~18日	相談支援従事者研修(サービス管理責任者/児童発達支援管理責任者向け研修) 北海道地域ケアマネジメントネットワーク	"	小野(智)、古屋
17日 ~20日	リハビリテーション看護研修会 国立障害者リハビリテーションセンター	埼玉県	松岡(裕)
18日	社会福祉法人経営実務セミナー 北海道社会福祉協議会	札幌市	石崎、福田(一)
19日	障害福祉事業経営セミナー 全国社会福祉法人経営者協議会	東京都	遠藤(久)
3月 2日	北広島市就労情報交換会 障がい者就労支援センターめーでる	北広島市	佐藤(貴)、渡辺(芳)、萩原、伊藤(智)、中田(光)、伊藤(大)
3日	北広島市地域たすけあい会議全体会 北広島市保健福祉部高齢者支援課	"	秋元、梶川、服部
"	農福連携セミナー 農林水産省 北海道農政事務所	札幌市	石崎、萩原
"	特定給食施設等研修会 札幌市保健福祉局	"	小峯、鈴木(京)
6日	多様な働き方と生き方を実現する地域を目指して きたひろしま暮らしサポートセンター	北広島市	萩原
7日 ~8日	リネンサプライ業技能実習講習会(中級) 日本テキスタイルサプライ協議会	東京都	津田

開催日	研修等の名称	開催地	出席者
3月 8日	防災研修会 北広島市自治連合会	北広島市	古崎、堀(美)
9日 ~10日	社会就労センター施設長・職員研修会/事業所経営セミナー 北海道社会就労センター協議会	札幌市	福田(一)、菅原(宗)、藤原(雅)、道下(健)、 市川、小田、佐藤(貴)、大黒、鳥居、 及川(勝)、梶川、花岡、東
11日	改正社会福祉法対応セミナー 北海道リハビリ(法人本部)	施設内	28名
12日	失語症の正しい理解とコミュニケーション 北広島市きた高齢者支援センター	北広島市	松本(榮)
16日	障がい者就労支援フォーラム 石狩障がい者就業・生活支援センターのいける	札幌市	萩原、中田(光)
19日	福祉委員会健康講演会 西の里・虹ヶ丘社会福祉委員会	北広島市	梶川、服部、秋元
合 計			延べ577名

3月11日 荒木、石崎、市川、伊藤(智)、伊藤(義)、今井、及川(勝)、奥田(雅)、小田、小野(智)、北川(純)、梶川、佐藤(貴)、
社会福祉法対応セミナー 菅原(靖)、杉田、鈴木(博)、須田、住谷、鳥居、萩原、服部、福田(一)、藤井、藤原(雅)、古屋、水口、渡辺(裕)、
渡辺(芳) (五十音順)

定期的内部研修

開催日	研修等の名称	事業所	出席者
8月 4日・6日 7日・11日 13日・14日	福祉サービス利用手続き及びマナー内部研修会	クリーナーズ	阿部(泰)、秋元、安藤、伊賀、池田(ゆ)、石川(晃)、石黒、石山、稲垣、岩崎、上村、内潟、金山、川村(昭)、川村(恵)、工藤(彩)、窪田(剛)、是石、佐伯(肇)、佐々木(正)、東海林、新谷、曾我部、竹内(司)、竹内(孝)、立崎、田中(裕)、得地、中川(久)、野宮(睦)、浜根、藤原(基)、古川(志)、松田(朗)、松本(榮)、宮本、山崎(正)、山下(幸)、渡邊(由) 39名
1月19日・21日 22日・28日 2月1日	障害者差別解消法、障害者虐待防止法及び障がい福祉サービス内部研修会		
4月8日・9日 5月20日・21日 6月3日・4日 7月15日・16日 9月16日・17日 10月14日・15日 11月18日・19日 12月9日・10日 1月13日・14日 2月10日・11日 3月24日・25日	福祉事業職員自主研修会	おおぞら	東、遠藤(美)、小野(智)、尾野、加々見、加藤(裕)、窪田(悦)、田村(ゆ)、新出、須山、知覧、津田、中川(晴)、中村(友)、中田(光)、萩原、橋本(美)、細川(英)、道下(健)、山本(哲)、山田(真)、渡辺(芳) 22名
4月30日 5月29日 6月15日・27日 7月30日 8月26日 9月16日・30日 10月30日 11月27日 12月24日 1月22日 2月19日 3月18日	福祉事業職員研修会	エイト	秋山、上田、生島、池野、伊藤(大)、伊藤(智)、及川(勝)、奥田(雅)、片岡、上、川上、川端、酒井(智)、佐藤(貴)、杉田、住谷、高松、谷口(博)、仲野、布村、浜崎、古屋、松崎、松本(恭)、森田(修)、吉本、渡辺(裕) 27名

開催日	研修等の名称	事業所	出席者
2月22日 3月28日	施設内研修	ワーク	飯澤、大山(毅)、岡本(佳)、亀貝、工藤(竜)、 小峯、田川、野宮(将)、本間(大)、松岡(裕)、 三上(雅)、横山(美)、横山(真)、吉永(め)、渡辺(卓) 15名
8月11日 9月8日・11日 10月2日 12月3日 2月5日・10日 18日・19日 22日 3月8日・11日 22日・25日	世話人研修会	エルフィンホーム	大原、柿崎、神谷、工藤(朱)、菅原(和)、高橋(雄)、 田中(百)、西、藤澤(瑞)、服部、古崎、堀(美)、 山本(二)、吉井 14名
7月8日 8月11日	指導員研修会	陽だまり	阿部(み)、井上、近江、大西、鈴木(百)、高橋(優)、 服部 7名
合計			124名

5. 行事・事業等

開催日	行事・事業内容	
4月 2日	税務調査(澁谷税理士)	
4日	就労移行支援プログラム(S S T)	ワーク
9日	父母の会役員会	セルフ
18日	調理実習	ワーク
21日	監事監査(田中監事)	
23日	不在者投票(統一地方選挙)	エイト
25日	利用者社会見学会(いわみざわ公園)	ワーク
"	利用者社会見学会(サッポロビール北海道工場)	セルフ
30日	就労移行支援プログラム(S S T)	セルフ
5月 1日	利用者社会見学会(平岡梅林公園)	エイト
2日	利用者社会見学会(平岡梅林公園)	クリーナーズ
"	就労移行支援プログラム(S S T)	ワーク
4日	施設内レクリエーション(温泉風入浴会及び食事会)	ワーク
8日	税務調査(澁谷税理士)	
9日	利用者社会見学会(くるるの杜、平岡樹芸センター)	ワーク
10日	春の一斉清掃(西の里広栄町内会主催)	エルフィン
"	春の一斉清掃(西の里中央町内会主催)	陽だまり
11日	監事監査(田中監事)	
"	利用者負担金・補足給付に係る利用者への説明会	エイト
13日	監事監査(田中監事、山崎監事)	
"	クリーンデー(施設構内整備運動)	エイト・印刷事業部・法人本部
15日	クリーンデー(施設構内整備運動)	クリーナーズ、クリーニング事業部
19日	北海道立向陽学院 職員・入所者交流会	陽だまり
22日	監事監査(田中監事)	
23日	調理実習	ワーク
"	利用者社会見学会(北海道博物館)	セルフ
27日	クリーンデー(施設構内整備運動)	おおぞら、クリーニング事業部
28日	就労移行支援プログラム(S S T)	セルフ
31日	札幌市障がい者スポーツ大会(すずらんピック2015)	ワーク
6月 10日	障害者雇用納付金関係業務調査(高齢・障害・求職者雇用支援機構)	法人本部
13日	就労移行支援プログラム(S S T)	ワーク
16日	福祉避難所の設置及び運営に関する協定の締結式(北広島市)	エイト
20日	利用者社会見学会(円山動物園)	セルフ

開催日	行事・事業内容	
6月22日	施設内レクリエーション(焼肉会)	エイト
23日	利用者社会見学会(芸術の森美術館)	ワーク
25日	就労移行支援プログラム(SST)	セルフ
"	北海道立向陽学院 職員・入所者交流会	陽だまり
26日	総合防災訓練(夜間)	エイト
27日	調理実習	ワーク
28日	施設外レクリエーション(ボーリング大会)	エルフィン(自治会)
30日	献血(北海道赤十字血液センター)	北広島全施設・法人本部
7月 3日	平成26年度 合同打ち上げ	エイト・印刷事業部・法人本部
4日	平成26年度 合同打ち上げ	クリーナーズ、おおぞら、地域福祉推進室、クリーニング事業部
5日	西の里広栄町内会「焼肉親睦会」(西の里さくら公園)	エルフィン
10日	利用者社会見学会(札幌ドーム:野球観戦)	エイト
"	総合防災訓練(夜間)	エルフィン(自治会)
12日	西の里中央町内会「焼肉親睦会」(田島工業駐車場)	陽だまり
18日	施設内レクリエーション(焼肉会)	セルフ(自治会)
23日	札幌市実地指導監査	ワーク
25日	調理実習	ワーク
26日	施設内レクリエーション(焼肉会)	ワーク
"	利用者社会見学会(札幌ドーム:サッカー観戦)	ワーク
"	利用者社会見学会(小樽方面)	陽だまり
30日	就労移行支援プログラム(SST)	セルフ
8月 4日	施設内レクリエーション(花火大会)	陽だまり
6日	施設内レクリエーション(花火大会)	エイト(自治会)
13日	消防設備等立ち入り検査(北広島市消防署)	法人本部、エイト
15日	利用者社会見学会(北海道博物館)	ワーク
22日	調理実習	ワーク
25日	総合防災訓練(地震・火災想定)	エイト
27日	就労移行支援プログラム(SST)	セルフ
29日	利用者社会見学会(サッポロさとらんど)	セルフ
30日	第42回ボランティア・カーニバル	
9月 4日	消防設備等立ち入り検査(北広島市消防署)	北広島全施設
"	総合防災訓練	セルフ
12日	就労移行支援プログラム(SST)	ワーク
"	利用者社会見学会(大倉山ジャンプ競技場)	ワーク
15日	北海道給食施設指導監査	

開催日	行事・事業内容	
9月16日	総合防災訓練	セルフ(やまはな)
18日	北広島市西の里小学校「総合学習(車椅子体験実習)」	クリーナーズ、地域福祉推進室
20日	温泉風入浴会及び食事会	ワーク
21日	利用者社会見学会(北海道博物館)	クリーナーズ
22日	施設内レクリエーション(温泉風入浴会及び食事会)	ワーク
24日	北広島市西の里小学校「総合学習(車椅子体験実習)」	クリーナーズ、地域福祉推進室
26日	調理実習	ワーク
26日 ~27日	自治会旅行(洞爺・登別方面)	セルフ
28日	監事監査(山崎監事)	法人本部、エイト
10月1日	税務調査(澁谷税理士)	
8日	自主避難訓練	陽だまり
10日	父母の会研修会	セルフ
"	北海長正会 北広島リハビリセンター特養部四恩園開設20周年記念イベント(出店)	ワーク
12日	施設内レクリエーション(温泉風入浴会及び食事会)	ワーク
14日	総合防災訓練	法人本部、北広島全施設
15日	クリーンデー(施設構内環境整備運動)	エイト・印刷事業部・法人本部
17日	調理実習	ワーク
18日	秋の一斉清掃(西の里広栄町内会主催)	エルフィン自治会
"	利用者社会見学会(小樽水族館)	エルフィン自治会
"	札幌市身体障がい者福祉事業連携協議会 災害時緊急避難訓練	ワーク、セルフ
20日 ~22日	定期健康診断・有機溶剤特殊健康診断	北広島施設
23日	施設内レクリエーション(藤田マジック同好会マジックショー)	エイト
"	施設内レクリエーション(鍋パーティー)	エイト
24日	就労支援プログラム(SST講習会)	ワーク
"	利用者社会見学会(新千歳空港)	セルフ
27日	ダイアパー衛生基準自主点検調査	おおぞら
29日	定期健康診断・有機溶剤特殊健康診断	セルフ(やまはな)
"	就労支援プログラム(SST)	セルフ
11月3日	利用者社会見学会(大滝きのこ王国)	ワーク
4日	監事監査(山崎監事)	北広島施設
"	総合防災訓練	陽だまり
5日 ~6日	福祉サービス第三者評価訪問調査	セルフ

開催日	行事・事業内容	
11月 6日	永年勤続顕彰並びに資格取得者等表彰祝賀会	
7日	定期健康診断	ワーク
"	就労支援プログラム(S S T)	
11日	札幌市障がい福祉施設等合同説明会への参加	ワーク、セルフ
17日	福祉サービス第三者評価訪問調査	
19日	中間監査(田中監事)	
20日	煤払い清掃(クリーニング工場)	クリーナース
21日	施設内レクリエーション(カラオケ大会・ゲーム大会・調理実習)	
23日	施設内レクリエーション(温泉風入浴会及び食事会)	
26日	就労支援プログラム(S S T)	
28日	調理実習	
12月12日	施設外レクリエーション(忘年会(アサヒビール園))	エルフィン自治会
"	就労支援プログラム(S S T)	
17日	施設内レクリエーション(クリスマス会)	陽だまり
18日	施設内レクリエーション(讃美歌発表会(北広島かおり幼稚園))	
19日	調理実習	
"	施設内レクリエーション(自治会主催「クリスマス会」)	
23日	施設内レクリエーション(クリスマス会)	
24日	施設内レクリエーション(クリスマス会)	
"	就労支援プログラム(S S T)	
26日	施設内レクリエーション(温泉風入浴会及び食事会)	
29日	施設内レクリエーション(納会(利用者慰労会))	
1月 4日	仕事初めの儀	法人本部、北広島施設、札幌施設
"	成人の祝い	
11日	施設内レクリエーション(温泉風入浴会及び食事会)	
15日	施設内レクリエーション(新年会)	エイト自治会
16日	就労支援プログラム(S S T)	
23日	調理実習	
"	施設内レクリエーション(餅つき会)	
26日	厨房立入衛生指導(札幌市豊平区保健福祉部)	
28日	就労支援プログラム(S S T)	
30日	施設内レクリエーション(温泉風入浴会及び食事会)	
2月 3日	施設内レクリエーション(節分(豆まき))	

開催日	行事・事業内容
2月 3日	除雪交流会 クリーナース
6日	就労支援プログラム(S S T) ワーク
8日	針供養 セルプ
13日	新年親睦会(アサヒビール園) おおぞら、クリーニング事業部
"	北広島団地地域運動会 ワーク
15日	書面監査(北海道石狩振興局) エイト
20日	施設内レクリエーション(そば打ち会) セルプ
24日	札幌市障がい福祉施設等合同説明会への参加 ワーク、セルプ
25日	就労支援プログラム(S S T) セルプ
27日	施設内レクリエーション(温泉風入浴会及び食事会) ワーク
"	調理実習 ワーク
"	定期健康診断 ワーク
3月 2日 ~ 4日	定期健康診断・有機溶剤特殊健康診断 北広島施設、札幌施設
3日	施設内レクリエーション(ひなまつり) 陽だまり
4日	総合防災訓練 セルプ
7日	総合防災訓練 セルプ(やまはな)
15日	施設外レクリエーション(ボーリング大会) 陽だまり
"	医療関連サービスマーク実施調査 おおぞら
16日	監事監査(野村監事) 札幌施設
18日	施設内レクリエーション(鍋パーティー) エイト
19日	施設内レクリエーション(温泉風入浴会及び食事会) ワーク
"	調理実習 ワーク
"	施設内レクリエーション(カラオケ大会・ゲーム大会・調理実習) セルプ
"	観客動員連動型社会貢献プログラム「FOOD-COUNTERプロジェクト」授与式 陽だまり
24日	総合防災訓練 クリーナース、おおぞら、地域福祉推進室、クリーニング事業部
"	就労支援プログラム(S S T) セルプ
25日	総合防災訓練 ワーク
26日	就労支援プログラム(S S T) ワーク
28日 ~ 30日	インターンシップ受入(道都大学) エイト

6 . 主な来所者（施設見学）

来所日	来 所 者	人 数
4月 1日	北海道岩見沢高等養護学校 2年生・教職員(エイト)	2名
3日	北海道千歳高等支援学校 2年生・保護者・教職員(セルフ)	6名
6日	北海道札幌養護学校 教職員(ワーク)	2名
"	北海道雨竜高等養護学校 教職員(セルフ)	1名
15日	自衛隊札幌病院 准看護学院 2年生・教職員(おおぞら・エイト)	27名
16日	札幌弁護士会 高齢者・障害者支援委員会(エイト・エルフィン)	6名
20日	社会福祉法人 響会 相談支援事業所 草笛館 職員(セルフ)	1名
23日	北海道小樽高等支援学校 教職員(ワーク)	1名
"	北海道札幌養護学校 保護者・教職員(セルフ)	2名
5月 7日	札幌市立月寒中学校 特別支援学級 教職員(セルフ)	2名
11日	札幌市障がい者相談支援事業所 きよサポ 見学者・職員(セルフ)	3名
13日	北海道白樺高等養護学校 2年生・教職員(セルフ)	16名
14日	社会福祉法人北光社 ふくじゅ園 職員・札幌高等養護学校 2年生(クリナーズ)	2名
15日	北海道余市養護学校 しりべし学園 教職員(ワーク)	1名
22日	北海道山の手高等養護学校 教職員(セルフ)	2名
28日	札幌小樽高等支援学校 2年生・教職員(ワーク)	2名
6月 8日	札幌市立清田中学校 特別支援学級 3年生・保護者・教職員(セルフ)	4名
11日	札幌市立真栄中学校 特別支援学級 3年生・保護者・教職員(セルフ)	3名
15日	南幌町役場 保健福祉課 福祉障がいグループ 見学者・職員(クリナーズ)	2名
22日	札幌市立月寒中学校 特別支援学級 3年生・保護者・教職員(セルフ)	12名
25日	北海道千歳高等支援学校 1年生・教職員(おおぞら)	32名
26日	社会福祉法人岩見沢光明舎 職員(エルフィン)	6名
7月 1日	札幌市立月寒中学校 特別支援学級 3年生・教職員(セルフ)	26名
"	札幌市立北野中学校 特別支援学級 3年生・保護者・教職員(セルフ)	4名
7日	北海道千歳高等支援学校 2年生・教職員(ワーク)	2名
8日	北海道夕張高等養護学校 教職員(ワーク)	1名
13日	北海道立向陽学院 卒業生・教職員(おおぞら)	8名
15日	社会福祉法人北ひろしま福祉会 就労センタージョブ 見学者・職員他(クリナーズ)	3名
16日	札幌市豊平区月寒地区 民生委員・児童委員協議会(エイト)	2名
"	北海道札幌稲穂高等支援学校 3年生・教職員(ワーク)	2名

来所日	来 所 者	人 数
7月17日	社会福祉法人北ひろしま福祉会 障がい者就労支援センター めーでる 相談者・職員(クリーナーズ)	2名
22日	社会福祉法人北海長正会 障がい者生活支援センター みらい 相談者・職員(クリーナーズ)	2名
24日	札幌市生活就労支援センター ステップ 見学者・職員(やまはな)	2名
28日	北海道南幌養護学校 教職員(セルフ)	10名
"	北海道白樺高等養護学校 2年生・保護者(セルフ)	2名
30日	北海道新篠津高等養護学校 1年生・保護者 (セルフ)	2名
31日	北海道札幌高等養護学校 教職員(エイト)	3名
"	北海道札幌養護学校 高等部 教職員(エルフィン)	2名
8月 1日	北海道白樺高等養護学校 2年生・保護者(セルフ)	3名
3日	北海道室蘭高等養護学校 教職員(おおぞら・エイト・エルフィン)	4名
"	北海道夕張高等養護学校 教職員(セルフ)	2名
5日	学校法人東日本学園 北海道医療大学 臨床福祉学科 1年生・教職員(おおぞら・エイト)	14名
"	北海道伊達高等養護学校 2年生・教職員(エイト・エルフィン)	4名
"	学校法人北海道科学大学 北海道薬科大学 教職員(セルフ)	2名
6日	北海道札幌視覚支援学校 教職員(セルフ)	2名
7日	北海道札幌市立豊明高等養護学校 2年生・保護者(セルフ)	2名
10日	北海道白樺高等養護学校 2年生・保護者(セルフ)	2名
17日	社会福祉法人クピド・フェア 障害者支援施設 パシオ 利用者・職員(エルフィン)	3名
21日	札幌市豊平区月寒地区 民生委員・児童委員協議会(おおぞら・エイト)	40名
25日	北海道高等聾学校 1～2年生・教職員(おおぞら・エイト)	43名
26日	北海道山の手高等養護学校 1～3年生・保護者・教職員(セルフ)	29名
27日	札幌市立羊が丘中学校 特別支援学級 1～3年生・保護者・教職員(セルフ)	28名
9月 2日	株式会社光生舎 職員(おおぞら)	8名
3日	南幌町役場 保健福祉課 福祉障がいグループ 見学者・職員(クリーナーズ)	2名
"	登別市美園・若草地区 民生委員協議会及び児童委員協議会 委員(おおぞら)	19名
"	北海道新篠津高等養護学校 2年生・教職員(おおぞら・エルフィン)	26名
"	北海道新篠津高等養護学校 2年生・教職員(エイト)	26名
8日	社会福祉法人札幌療育会 相談支援事業所 ノック 職員・法務省社会復帰調整官(セルフ)	4名
"	札幌市立山の手養護学校 3年生・保護者(セルフ)	2名
9日	長沼町教育研究協議会 障がい児部会 職員(おおぞら・エイト)	12名
15日	札幌市生活就労支援センター ステップ 相談者・職員(セルフ)	4名
16日	北海道白樺高等養護学校 1年生・教職員(おおぞら)	10名

来所日	来 所 者	人 数
9月24日	北海道札幌稲穂高等支援学校 2年生・教職員(おおぞら・エイト・エルフィン)	58名
25日	社会福祉法人北海道博愛舎 理事・監事・評議員・事務局(おおぞら)	12名
"	北海道札幌市立豊明高等養護学校 3年生・保護者(セルフ)	14名
"	北海道札幌市立豊明高等養護学校 1年生・教職員(やまはな)	20名
29日	北広島市西の里小学校 2年生・教職員(エイト)	12名
10月 5日	特定非営利活動法人スプラ 就業・生活相談室テラス 職員(セルフ)	4名
6日	余市町役場 交通安全父母の会(セルフ)	28名
"	国立大学法人北海道大学 教育学部 4年生(陽だまり)	1名
7日	北海道白樺高等養護学校 教職員(セルフ)	3名
"	学校法人北海道科学大学 北海道薬科大学 2年生(セルフ)	2名
9日	北海道立北広島西高等学校 教職員(エイト)	3名
13日	森町 民生委員協議会(おおぞら・エイト)	15名
"	社会福祉法人北海道家庭学校 理事(陽だまり)	1名
15日	社会福祉法人天寿会 しおさい 職員(エルフィン)	5名
20日	北広島市立東部中学校 特別支援学級 3年生・教職員(エイト)	8名
23日	社会福祉法人北広島福祉会 北広島セルフ 職員・実習希望者(クリーナース)	3名
"	恵庭市 民生委員・児童委員連絡協議会(おおぞら・エイト)	25名
29日	江別市立野幌中学校 特別支援学級 2年生・教職員(エイト)	3名
11月11日	札幌市立あやめ野小学校 4年生・教職員(セルフ)	30名
"	学校法人酪農学園 職員(エイト)	3名
16日	北海道札幌視覚支援学校 教職員(セルフ)	10名
17日	北海道北広島西高等学校 1年生・教職員(おおぞら・エイト)	167名
18日	北海道北広島西高等学校 1年生・教職員(おおぞら・エイト)	164名
20日	北海道白樺高等養護学校 保護者・教職員(エイト)	32名
26日	キャリアバンク(株) 札幌市生活就労支援センター ステップ 職員・利用者(やまはな)	3名
30日	北海道札幌高等養護学校 教職員・1年生(セルフ)	10名
12月 1日	一般社会人(やまはな)	1名
3日	北海道中標津高等養護学校 教職員(エイト・エルフィン)	2名
25日	北海道小樽高等支援学校 2年生・保護者(エイト)	2名
1月 6日	北海道札幌養護学校 保護者・2年生(セルフ、やまはな)	2名
"	北海道札幌高等養護学校 保護者・2年生(セルフ)	2名
7日	北海道札幌市立豊明高等養護学校 保護者・1年生(やまはな)	2名

来所日	来 所 者	人 数
1月13日	社会福祉法人札幌療育会 相談支援事業所 ノック 職員・利用希望者(ワーク)	2名
25日	特定非営利活動法人アフタースクール運営会 職員(ワーク)	1名
2月 1日	社会福祉法人報恩会 就業・生活相談室しんさっぽろ 職員(おおぞら・エルフィン)	2名
4日	特定非営利活動法人アフタースクール運営会 職員(ワーク)	1名
13日	北海道室蘭児童相談所 所長(陽だまり)	1名
18日	北海道小樽高等支援学校 教職員(エイト)	2名
23日	特定非営利活動法人アフタースクール運営会 職員(ワーク)	1名
25日	特定非営利活動法人アフタースクール運営会 職員(ワーク)	1名
3月 2日	自衛隊札幌地方協力本部 千歳・恵庭地域援護センター 職員・実習希望者(クリーナーズ)	2名
23日	赤井川村 民生委員協議会(おおぞら・エイト)	6名
合 計		1165名

7. 職場実習（受入れ）

実習日	実 習 者	実習施設	人 数
4月 6日～ 8日	特定非営利活動法人ほっとらんど 利用者	クリーナーズ	1名
8日～15日	一般社会人	おおぞら	1名
27日～28日	北海道札幌稲穂高等支援学校 3年生	おおぞら	1名
27日～5月2日	一般社会人	おおぞら	1名
5月 2日・4日	北海道千歳高等支援学校 3年生	おおぞら	1名
11日～16日	一般社会人	クリーナーズ	1名
"	一般社会人	セルブ(やまはな)	1名
18日～20日	一般社会人	おおぞら	1名
6月 1日～ 5日	北海道札幌稲穂高等支援学校 2年生	セルブ	1名
8日～12日	一般社会人	おおぞら	1名
"	北海道小樽高等支援学校 2年生	ワーク	1名
15日～19日	札幌市立清田中学校 特別支援学級 3年生	セルブ	1名
"	北海道小樽高等支援学校 2年生	セルブ	1名
15日～26日	北海道高等聾学校 3年生	おおぞら	1名
16日～26日	北海道千歳高等支援学校 2年生	おおぞら	1名
22日～26日	一般社会人	クリーナーズ	1名
"	札幌市立真栄中学校 特別支援学級 3年生	ワーク	1名
"	札幌市立真栄中学校 特別支援学級 3年生	セルブ	1名
29日～7月3日	札幌市立月寒中学校 特別支援学級 3年生	セルブ	2名
29日～7月10日	北海道札幌市立豊明高等養護学校 2年生	セルブ	1名
30日	学校法人吉田学園 専門学校北海道リハビリテーション大学 3年生	エイト	2名
7月 6日～10日	札幌市立月寒中学校 特別支援学級 3年生	セルブ	2名
"	札幌市立北野中学校 特別支援学級 3年生	セルブ	1名
27日	北海道札幌市立豊明高等養護学校 1年生	セルブ	1名
30日～31日	北海道札幌稲穂高等支援学校 3年生	ワーク	1名
3日・8月4日・1日	一般社会人	クリーナーズ	1名
8月 3日	北海道千歳高等支援学校 2年生	セルブ	1名
"	北海道札幌市立豊明高等養護学校 2年生	セルブ	1名
3日～ 7日	学校法人千歳科学技術大学 3年生	エイト	2名
4日	北海道白樺高等養護学校 2年生	セルブ	1名
6日	北海道白樺高等養護学校 2年生	セルブ	1名

実習日	実 習 者	実習施設	人 数
8月 6日~7日・10日~11日	北海道新篠津高等養護学校 2年生	おおぞら	1名
13日	北海道余市養護学校 しりべし学園 3年生	ワーク	1名
"	北海道新篠津高等養護学校 1年生	セルフ	1名
"	北海道白樺高等養護学校 2年生	セルフ(やまはな)	1名
18日	北海道小樽高等支援学校 2年生	セルフ	1名
21日	北海道夕張高等養護学校 2年生	セルフ	1名
27日~9月1日	北海道リハビリ 陽だまり 利用者	クリーナーズ	1名
31日~9月4日	学校法人鶴岡学園 北海道文教大学 2年生	エイト	2名
31日~9月30日	北海道白樺高等養護学校 3年生	おおぞら	2名
9月 2日	北広島市立大曲中学校 特別支援学級 1・3年生	クリーナーズ	3名
"	北広島市立大曲中学校 特別支援学級 1~3年生	おおぞら	6名
"	北広島市立大曲中学校 特別支援学級 1・2年生	エイト	3名
7日~11日	一般社会人	クリーナーズ	1名
7日~10月2日	北海道千歳高等支援学校 3年生	おおぞら	2名
"	北海道札幌市立豊明高等養護学校 3年生	エイト	1名
10日	一般社会人	セルフ	1名
11日	北広島市立西の里中学校 2年生	おおぞら	2名
"	北広島市立西の里中学校 2年生	エイト	2名
14日~10月9日	北海道千歳高等支援学校 3年生	エイト	1名
22日	北海道余市養護学校 しりべし学園 3年生	ワーク	1名
28日~10月2日	北海道夕張高等養護学校 2年生	セルフ	1名
"	北海道千歳高等支援学校 2年生	セルフ	1名
28日~10月9日	北海道千歳高等支援学校 2年生	ワーク	1名
28日~10月16日	北海道伊達高等養護学校 3年生	エイト	1名
30日~10月2日	一般社会人	おおぞら	1名
10月 6日~ 8日	一般社会人	おおぞら	1名
7日	北広島市立西の里小学校 1年生	エイト	10名
13日~16日	北海道室蘭養護学校 2年生	おおぞら、エルフィン	1名
16日	南幌町立南幌中学校 3年生	おおぞら	1名
19日~23日	学校法人北海道科学大学 北海道薬科大学 2年生	セルフ	1名
26日~30日	学校法人北海道科学大学 北海道薬科大学 2年生	セルフ	1名
20日~24日	北海道リハビリ リハビリ・おおぞら 利用者	エルフィン	1名

実習日	実 習 者	実習施設	人 数
10月 22日～28日	北広島市立東部中学校 特別支援学級 3年生	おおぞら	2名
”	北広島市立東部中学校 特別支援学級 3年生	エイト	3名
26日～30日	北海道高等聾学校 1年生	おおぞら	1名
11月 2日～6日	一般社会人	おおぞら	2名
9日～13日	一般社会人	クリーナーズ	1名
9日～20日	学校法人池上学園 池上学院グローバルアカデミー専門学校 2年生	おおぞら	1名
”	北海道立向陽学院 2年生	エイト	1名
19日	札幌市立羊丘中学校 2年生	セルブ	3名
20日	札幌市立陵陽中学校 2年生	セルブ	3名
24日	一般社会人	クリーナーズ	1名
26日	札幌市立東月寒中学校 2年生	セルブ	2名
12月 3日～4日	一般社会人	やまはな	1名
14日	一般社会人	やまはな	1名
14日～18日	北海道札幌稲穂高等支援学校 3年生	ワーク	1名
1月 6日	北海道札幌市立豊明高等養護学校 2年生	セルブ	1名
11日～15日	北海道高等聾学校 3年生	おおぞら	1名
12日～13日	北海道札幌高等養護学校 2年生	やまはな	1名
12日～15日	北海道小樽高等支援学校 2年生	エイト	1名
”	北海道白樺高等養護学校 2年生	おおぞら	1名
12日～21日	北海道リハビリー セルブさっぽろ 利用者	エルフィン	1名
18日～22日	一般社会人	おおぞら	1名
22日～24日・27日～28日	一般社会人	おおぞら	1名
23日～24日	北海道白樺高等養護学校 2年生	やまはな	1名
2月 1日～5日	一般社会人	施設整備課	1名
2日	北海道札幌高等養護学校 2年生	セルブ	1名
8日～13日	北海道立向陽学院 2年生	おおぞら	1名
17日～18日	一般社会人	施設整備課	1名
3月 7日～11日	一般社会人	クリーナーズ	1名
28日	北海道雨竜高等養護学校 1年生	セルブ	1名
29日～30日	北海道岩見沢高等養護学校 2年生	エイト	1名
合 計			129名

8. 施設設備整備実施報告

8-1 実施状況総括表

(1) リハビリ・クリーナーズ

金額単位：千円(税抜)

年度計画		計画に対する実施			計画外追加事業		総実施事業	
件数	総事業費	件数	実施金額	実施率	件数	実施金額	件数	実施金額
3	803,322				1	1,580	1	1,580

(2) リハビリ・おおぞら

年度計画		計画に対する実施			計画外追加事業		総実施事業	
件数	総事業費	件数	実施金額	実施率	件数	実施金額	件数	実施金額
1	6,000						0	0

(3) リハビリ・エイト

年度計画		計画に対する実施			計画外追加事業		総実施事業	
件数	総事業費	件数	実施金額	実施率	件数	実施金額	件数	実施金額
0	0						0	0

(4) 札幌ワークセンター

年度計画		計画に対する実施			計画外追加事業		総実施事業	
件数	総事業費	件数	実施金額	実施率	件数	実施金額	件数	実施金額
1	22,000	1	20,380	92.6%			1	20,380

(5) セルプさっぽろ

年度計画		計画に対する実施			計画外追加事業		総実施事業	
件数	総事業費	件数	実施金額	実施率	件数	実施金額	件数	実施金額
1	3,000	1	2,400	80.0%			1	2,400

(6) エルフィンホーム

年度計画		計画に対する実施			計画外追加事業		総実施事業	
件数	総事業費	件数	実施金額	実施率	件数	実施金額	件数	実施金額
1	2,000	1	1,260	63.0%			1	1,260

(7) 陽だまり

年度計画		計画に対する実施			計画外追加事業		総実施事業	
件数	総事業費	件数	実施金額	実施率	件数	実施金額	件数	実施金額
0	0						0	0

(8) ポプルス

年度計画		計画に対する実施			計画外追加事業		総実施事業	
件数	総事業費	件数	実施金額	実施率	件数	実施金額	件数	実施金額
0	0						0	0

(9) その他(クリーニング事業部、法人本部 事務局)

年度計画		計画に対する実施			計画外追加事業		総実施事業	
件数	総事業費	件数	実施金額	実施率	件数	実施金額	件数	実施金額
4	83,703	3	80,440	96.1%			3	80,440

(10) 総 計

年度計画		計画に対する実施			計画外追加事業		総実施事業	
件数	総事業費	件数	実施金額	実施率	件数	実施金額	件数	実施金額
11	920,025	6	104,480	11.4%	1	1,580	7	106,060

<内補助金申請予定額>

3	188,601						0	0
---	---------	--	--	--	--	--	---	---

随意契約によることができる基準額(工事:250万円、物品:160万円)を超える実施事業

8-2 事業所別実施状況

(1) リハビリ・クリーナース

< 改造・改修 >

単位：千円(税抜)

事業	予算計上額	実施額	未実施額	完了
リハビリ・クリーナースの老朽改築 1	731,600		731,600	
リハビリ・クリーナースの老朽改築に係る解体撤去工事 2	16,422		16,422	
改造・改修 合計	748,022	0	748,022	0.0% (実施率)

1・2 平成27年度国庫補助が不採択のため、次年度に見送った。

< 更新 >

単位：千円(税抜)

事業	予算計上額	実施額	未実施額	完了
大型乾燥機の更新(10台)	55,300		55,300	
更新事業 合計	55,300	0	55,300	0.0% (実施率)

平成27年度国庫補助が不採択のため、次年度に見送った。

< 合計 >

単位：千円(税抜)

	予算計上額	実施額	未実施額	実施率
(リハビリ・クリーナース) 合計	803,322	0	803,322	0.0%

< 計画外 >

単位：千円(税抜)

事業	予算計上額	実施額	未実施額	完了
タオルフォルダーの導入	-	1,580		8月
計画外事業 合計	-	1,580		-

(2) リハビリ・おおぞら

< 更新 >

単位：千円(税抜)

事業	予算計上額	実施額	未実施額	完了
小型乾燥機の更新	6,000		6,000	
更新事業 合計	6,000	0	6,000	0.0% (実施率)

生産体制を見直し、更新台数及び集塵機の導入も合わせて再検討し、見送った。

< 合計 >

単位：千円(税抜)

	予算計上額	実施額	未実施額	実施率
(リハビリ・おおぞら) 合計	6,000	0	6,000	0.0%

(4) 札幌ワークセンター

< 改造・改修 >

単位：千円(税抜)

事業	予算計上額	実施額	未実施額	完了
建物外壁・防水等の改修工事	22,000	20,380		10月
改造・改修事業 合計	22,000	20,380		92.6% (実施率)

< 合計 >

単位：千円(税抜)

	予算計上額	実施額	未実施額	実施率
(札幌ワークセンター) 合計	22,000	20,380		92.6%

(5) セルプさっぽろ

< 更新 >

単位：千円(税抜)

事業	予算計上額	実施額	未実施額	完了
立体包装機の更新	3,000	2,400		10月
更新事業 合計	3,000	2,400		80.0% (実施率)

< 合計 >

単位：千円(税抜)

	予算計上額	実施額	未実施額	実施率
(セルプさっぽろ) 合計	3,000	2,400		80.0%

(6) エルフィンホーム

< 新規 >

単位：千円(税抜)

事業	予算計上額	実施額	未実施額	完了
グループホームの設計業務委託 基本設計・実施設計完了、設計監理未実施	2,000	1,260	540	9月 (一部)
新規事業 合計	2,000	1,260	540	63.0% (実施率)

< 合計 >

単位：千円(税抜)

	予算計上額	実施額	未実施額	実施率
(エルフィンホーム) 合計	2,000	1,260	540	63.0%

(9)-1 その他(クリーニング事業部)

< 更新 >

単位：千円(税抜)

事業	予算計上額	実施額	未実施額	完了
配送車両の更新	2,800		2,800	
営業車両の更新(小型貨物)	1,650	1,470		10月
営業車両の更新(小型乗用)	1,753	1,470		10月
改造・改修事業 合計	6,203	2,940	2,800	47.4% (実施率)

ルート編成を見直し、現有車両の配車で業務続行が可能となったため、見送った

(9)-2 その他(法人本部)

< 改造・改修 >

単位：千円(税抜)

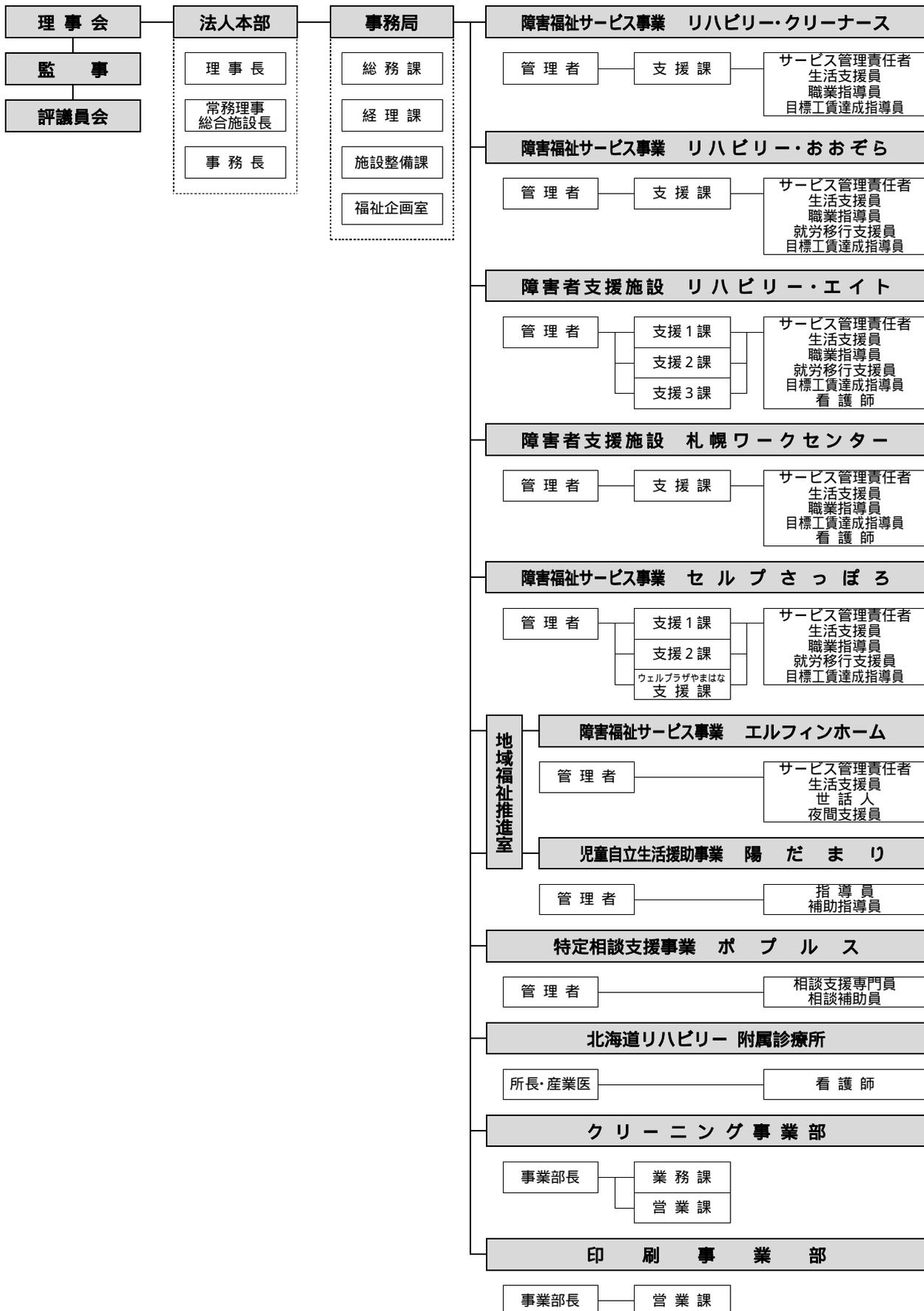
事業	予算計上額	実施額	未実施額	完了
クリーニング排水 原水槽移設工事(法人本部) 平成27年2月20日一般競争入札実施	77,500	77,500		8月
改造・改修事業 合計	77,500	77,500	0	100.0% (実施率)

< 合計 >

単位：千円(税抜)

	予算計上額	実施額	未実施額	実施率
(その他) 合計	83,703	80,440	0	96.1%

9. 組織図



10. 利用者等状況報告

1 利用者・従業員数

(平成28年 3月31日)

	利 用 者								従 業 員(内福祉事業職員)					合 計
	生活介護	就労移行	就労継続A型	就労継続B型	施設入所	共同生活援助	児童自立生活援助	小計 (前年度比)	正職員	嘱託職員	契約職員	小計 (前年度未比)		
(1) リハビリー クリーナーズ			12	27				39 0	20 (9)	1 (0)	22 (3)	43 (12)	-6 (0)	82
(2) リハビリー おおぞら		1	38	69				108 10	36 (16)		28 (5)	64 (21)	-7 (1)	172
(3) リハビリー エイト	44	2		36	40			122 -3	51 (25)		15 (5)	66 (30)	1 (2)	188
(4) 札幌ワーク センター	63			17	30			110 3	11 (11)		11 (11)	22 (22)	5 (5)	132
(5) セルブ さっぽろ		7	5	92				104 2	11 (11)		8 (7)	19 (18)	-1 (-1)	123
(6) エルフィン ホーム						26		26 0	1 (1)		1 (1)	2 (2)	0 (0)	28
(7) 陽だまり							2	2 -3		1 (1)	1 (1)	2 (2)	0 (0)	4
(8) ポプルス											1 (1)	1 (1)	0 (0)	1
(9) 法人本部									3 (3)	1 (1)		4 (4)	0 (0)	4
総 計	107	10	55	241	70	26	2	511 9	133 (76)	3 (2)	87 (34)	223 (112)	-8 (7)	734
(前年度比)	3	-5	7	7	0	0	-3	9	-6 (1)	0 (0)	-2 (6)	-8 (7)		1

備考 1 利用者数は、サービス利用契約に基づく、サービス別の提供者数で計算している。

2 施設入所、共同生活援助、児童自立生活援助は、夜間等の支援のため、日中活動及び従業員数の人数に重複している。

3 パート職員は、149名(クリーナーズのクリーニング取次店要員及びおおぞらのハウスキーパー等を含む。)